

授業科目名： 国文学	授業形態： 講義	授業担当者： 及川 良平（単独）	単位数： 2 単位
科目の種別： 選択・教養科目	授業回数： 15 回	対象学生： 保育科 1 年	開講学期： 後期
[授業の到達目標及びテーマ] 多くの優れた文学作品に触れることで「間接体験」を豊かにし、思考力・感性を養い、職業人として不可欠な人間力を身につける。 また、社会生活における国語力の大切さを認識し、「言葉」に対する自覚的な学習態度を育てる。 [授業の概要] 毎回、それぞれのテーマに沿った優れた文学作品を鑑賞し、人間の精神の多様なあり方に触れ、自己の表現意欲、表現力を向上させる。 また、名詩・名文の朗読・暗唱書写を通じて古典の素晴らしさを体感させ、漢字の演習を継続的に実施し、語彙力・漢字力を高める。			
[授業計画] 第 1 回：作 文 ① ／ 演習プリント① 第 2 回：随 想 ／ 演習プリント② 第 3 回：作 文 ② ／ 演習プリント③ 第 4 回：「天声人語」 ／ 演習プリント④ ⑤ 第 5 回：詩 ／ 演習プリント⑥ 第 6 回：作 文 ③ ／ 演習プリント⑦ ⑧ 第 7 回：故事成語 ／ 演習プリント⑨ 第 8 回：作 文 ④ ／ 演習プリント⑩ 第 9 回：漢 文 ／ 演習プリント⑪ 第 10 回：詩 ／ 演習プリント⑫ 第 11 回：短 歌（百人一首） 第 12 回：「天声人語」 ／ 演習プリント⑬ 第 13 回：作 文 ⑤ ／ 演習プリント⑭ 第 14 回：文の修辞法・文法のまとめ 第 15 回：おわりに（まとめ）			
[テキスト] 「原色シグマ新国語便覧」文英堂、「表現Ⅱ」東京書籍、プリント			
[参考書・参考文献等] 特になし			
[学生に対する評価] 定期試験に、作文・レポート・授業態度等を加味し、総合的に評価する。			
[履修にあたっての留意点] 定期試験において、ノート・テキストの持ち込みは不許可とする。			
[実務経験] 国語教諭として県立高校に勤務した経験をもとに、作文指導や国語の教養について、講義をします。			

授業科目名： 日本国憲法	授業形態： 講義	授業担当者： 千田 正紀（単独）	単位数： 2 単位
科目の種別： 必修・教養科目	授業回数： 15 回	対象学生： 保育科 1 年	開講学期： 後期
[授業の到達目標及びテーマ] 憲法の理念と基礎・基本的な内容を理解させる。また憲法前文と三つの基本原理について考察し自らの意見をもてる力を養いたい。 [授業の概要] 導入（本時の概要説明と時事問題）～展開（講義説明、板書、事例・判例、質疑応答）～整理（振り返り、まとめ）の流れを基本とする。 また憲法に関連させて事例・判例等を提示解説。各条文のもつ意味を理解し、考察させることで憲法のもつ理念の理解を図る。			
[授業計画] 第 1 回：憲法とは（我が国の憲法の成立、各国の憲法） 第 2 回：道徳、倫理と法（社会とルール） 第 3 回：日本国憲法の成立過程（憲法の構成と明治憲法との比較） 第 4 回：基本的人権の尊重①（自由権、社会権） 第 5 回：基本的人権の尊重②（参政権、平等権） 第 6 回：基本的人権の尊重③（請求権、知る権利） 第 7 回：保育をめぐる法律問題（保育所・幼稚園における事故と責任） 第 8 回：子供・未成年者の人権（人権保障と制約、子供の権利条約） 第 9 回：新しい人権（プライバシーの権利と表現の自由） 第 10 回：外国人の人権（参政権と社会保障についての諸権利） 第 11 回：国民主権（天皇の権能、国会・内閣の地位と権能） 第 12 回：平和主義①（憲法前文、第九条 戦争放棄、戦力不保持と交戦権の否認） 第 13 回：平和主義②（国際平和と自国の防衛） 第 14 回：憲法の最高法規性と憲法改正の手続き 第 15 回：総括			
[テキスト] 自作のプリント資料を使用する。			
[参考書・参考文献等] 自作のプリント資料を使用する。			
[学生に対する評価] 定期考査のほか、講義後半において講義内容に関するレポートを作成してもらう。			
[履修にあたっての留意点] 本時のテーマは私たちの生活にどのような関わりをもっているかを考える。また時事問題や社会情勢についても触れるので、日常から時事問題に興味関心を持ってもらいたい。			
[実務経験] 高校での公民科教職の経験を土台にする。事例、判例や時事問題を取り上げ、現代社会の課題と憲法を関連させて身近なものとして考えさせたい。憲法と法が生活の基盤となって成立している事を理解させ、自分の事として考えさせたい。			

授業科目名： 日本史概論	授業形態： 講義	授業担当者： 千田 正紀（単独）	単位数： 2 単位
科目の種別： 選択・教養科目	授業回数： 15 回	対象学生： 保育科 2 年	開講学期： 前期
[授業の到達目標及びテーマ] これまで歩んできた日本の歴史を近隣諸国との関わりの中で、どのように自国文化を培ってきたのかを考察し理解を深めたい。そのうえで、現在の国際社会の中での日本の立ち位置を認識し、世界各国の日本へ対する期待や日本の役割を考えることができる力を養いたい。 [授業の概要] 小・中・高までの通史的な日本の歴史を、更に掘り下げながら各時代の特徴や現在とのつながりに重点を置く。事象に対して、通説との逆の立場からの見方や現代の感覚に置き換えて捉える。			
[授業計画] 第 1 回：授業計画の説明、歴史を学ぶ意義 / 明治維新（政府が目指したものと民衆の期待） 第 2 回：江戸時代から明治時代へ（幕藩政治の行き詰まりと世界情勢） 第 3 回：江戸時代中期～後期（安定した政治と町衆の文化） 第 4 回：江戸幕府の誕生（幕藩体制の安定化に向けた体制構築） 第 5 回：戦国大名の出現から天下統一（下剋上、海外各国の動向、新たな戦術・戦法の導入） 第 6 回：南北朝時代～室町時代（中央政界の出来事） 第 7 回：鎌倉時代（中央政界の出来事、世界情勢と元寇の影響） 第 8 回：平安時代～鎌倉時代へ（中央政界の動向、武士の台頭） 第 9 回：奈良時代～平安時代へ（新しい国造り、政治動向と都の遷都、蝦夷の開拓） 第 10 回：飛鳥時代～奈良時代へ（大和朝廷と大陸文化） 第 11 回：人類の起源～弥生時代（戦前の政治状況、世界の動きの中での日本の存在意義） 第 12 回：文化のまとめ（食事、建築・彫刻、歴史書・文学、書写・絵画・生け花・茶、芸能・各界） 第 13 回：明治時代～第二次世界大戦（欧化政策と民衆生活の変化、日本の軍国主義） 第 14 回：戦後処理～低成長期（日本国憲法の意義、高度経済成長に沸いた日本、世界の中の日本） 第 15 回：統括（歴史の観点について）			
[テキスト] 自作のプリント資料を使用する。			
[参考書・参考文献等] 自作のプリント資料を使用する。			
[学生に対する評価] 定期考査のほか、講義後半において講義内容に関するレポートを作成してもらう。			
[履修にあたっての留意点] 講義中に発問するが、「正答」かどうかには拘らず意見を述べることを重視する。関連性のある意見から講義へ展開するので不安、心配を抱えることがないことを強調したい。また時事問題や社会情勢についても触れるので、日常から時事問題に興味関心を持ってもらいたい。			
[実務経験] 民間企業での経験、中学校、高校での教職の経験を土台にする。民間企業では高校までの教科学習が会社生活において、どのように繋がり関わるのかを理解した。中学校、高校では民間企業の経験を活かし社会人として必要な視野や考察の仕方等の観点で授業している。課題に対して全体最適を意識した解決策を考察できる人になってもらいたい。そのような観点で講義に臨みたい。			

授業科目名： 自然科学概論	授業形態： 講義	授業担当者： 依田 清胤（単独）	単位数： 2 単位
科目の種別： 選択・教養科目	授業回数： 15 回	対象学生： 保育科 2 年	開講学期： 前期
[授業の到達目標及びテーマ] 日常生活のなかでふれる身近な自然現象について、正確に観察しその特徴を伝えることができるようになること。 [授業の概要] この授業の主題は‘水’である。私たち人間をはじめとして、すべての生き物にとって水はなくてはならない物質である。植物の中を流れあがる水からはじめ、山から海に流れくだる水、大気のなかを流れ、雨として地上に降りそそぐ水などのふるまいから、地球の環境について考えていく。			
[授業計画] 第 1 回：植物体内の水の流れ 第 2 回：植物の葉の構造 第 3 回：葉脈内の水の移動 第 4 回：地球上の水の動き 第 5 回：水の流れと地形 第 6 回：地形の読み方 第 7 回：水の挙動と大気循環 第 8 回：雲の動きをよむ 第 9 回：観天望～空から情報をよみとく～ 第 10 回：世界の気象 第 11 回：天気図の読み方 第 12 回：生物と季節～桜前線～ 第 13 回：大気循環と異常気象 第 14 回：水からみた地球環境 第 15 回：期末のまとめ			
[テキスト] 特になし。必要に応じてプリント等を配布する。			
[参考書・参考文献等] 特になし。授業の中で適宜紹介していく。			
[学生に対する評価] 授業はおおよそ 3 回分を一回にまとめ、講義と実験・野外実習（観察）等を組み合わせて実施する。この過程でおこなわれる質疑応答などに対する積極的な発言や独自性、および期末の“まなびのふりかえり”に関する内容を評価の対象とする。			
[履修にあたっての留意点] 日常生活のなか（通学の途中やテレビ、新聞、各種メディアなど）で接するさまざまな自然現象に関心をもつように心がけておくこと。			
[実務経験] 石巻専修大学に置いて、生命と地球、植物機能形態学、植物生態学の講義を担当するとともに、学生実験（森林の観察・調査）、植物野外実習などを実施している。			

授業科目名： 情報機器の操作	授業形態： 演習	授業担当者： 熊谷 賢（単独）	単位数： 2 単位
科目の種別： 必修・教養科目	授業回数： 1 5 回	対象学生： 保育科 2 年	開講学期： 前期
[授業の到達目標及びテーマ] 情報機器に関する基本的な知識（情報モラルなど）や ICT を利用した教育方法を学び、操作技術を習得させる。 [授業の概要] ・ Word、Excel、PowerPoint 等の基礎的な技能を習得する ・ 保育者として理解すべき情報モラルや ICT を利用した教育方法を習得する			
[授業計画] 第 1 回：インターネットの利用上の注意、活用方法、 情報セキュリティや情報モラルについて①（ネット社会のモラルとマナー） 第 2 回：Microsoft Office Word の演習①（文書） 第 3 回：Microsoft Office Word の演習②（装飾） 第 4 回：Microsoft Office Word の演習③（表） 第 5 回：Microsoft Office Word の演習④（チラシ） 第 6 回：Microsoft Office Excel の演習①（四則演算） 第 7 回：Microsoft Office Excel の演習②（関数） 第 8 回：Microsoft Office Excel の演習③（グラフ） 第 9 回：Microsoft Office Excel の演習④（条件判定） 第 10 回：Microsoft Office Excel の演習⑤（順序） 第 11 回：Microsoft Office Excel の演習⑥（セルの結合） 第 12 回：Microsoft Office PowerPoint の演習①（SmartArt） 第 13 回：Microsoft Office PowerPoint の演習②（ワードアート） 第 14 回：情報セキュリティや情報モラルについて②（ネット社会での生活と危険性） 第 15 回：情報セキュリティや情報モラルについて③（ICT を利用した教育方法）			
[テキスト] 「30 時間でマスター Office 2016」 実教出版 「事例で学ぶ情報モラル 2023」 実教出版			
[参考書・参考文献等] 必要に応じて資料を配布する。			
[学生に対する評価] 授業で作成した課題やレポートの提出で評価する。			
[履修にあたっての留意点] 授業はコンピュータ室を用いるが、様々な精密機器が配置されているので取り扱いを担当教員の指示を守り、丁寧に利用すること。			
[実務経験] 他校で担当した Excel を用いた統計学の講習の経験を活かして授業する。			

授業科目名： 情報機器の操作Ⅱ	授業形態： 演習	授業担当者名： 小原 善信（単独）	単位数： 2 単位
科目の種別： 選択・教養科目	授業回数： 1 5 回	対象学生： 保育科 2 年	開講学期： 後期
[授業の到達目標及びテーマ] 情報機器の操作Ⅰで学んだ IT の基礎知識とパソコンの操作技術をもとに、ビジネスシーンにおいて ICT を利活用した問題解決の方法を身につける。 この具体的な到達点として、日商 PC 文書作成 3 級の合格を目標とする。 [授業の概要] コンピュータとネットワークおよび情報セキュリティを学習し、パソコンアプリケーション「Microsoft Word」「Microsoft Excel」の応用的な操作技術を身につける。			
[授業計画] 第 1 回：日商 PC 文書作成 3 級の概要 ホームページ上の模擬問題を体験する 第 2 回：ビジネス文書の基礎 第 3 回：ビジネス文書のライティング技術 第 4 回：電子メールのライティング技術 第 5 回：ビジネス図解の基本 第 6 回：ビジネス文書の管理 第 7 回：基本的なビジネス文書の作成 第 8 回：表のあるビジネス文書の作成 第 9 回：図形のあるビジネス文書の作成 第 10 回：模擬試験&知識問題対策 1 第 11 回：模擬試験&知識問題対策 2 第 12 回：模擬試験&知識問題対策 3 第 13 回：模擬試験&知識問題対策 4 第 14 回：模擬試験&知識問題対策 5 第 15 回：まとめ			
[テキスト] 「いちばんやさしい日商 PC 検定文書作成 3 級」 技術評論社			
[参考書・参考文献など] 適宜、練習課題プリント及びデータを用意する。			
[学生に対する評価] 授業での課題、定期試験、検定試験の合否など総合的に評価する。			
[履修にあたっての留意点] パソコンは「習うより慣れろ」です。授業時間以外でも積極的にパソコンに向かって操作すること。			
[実務経験] 大学・専門学校での講師経験、および自身の IT 資格取得経験をもとに楽しく判りやすく演習する。			

授業科目名： 外国語コミュニケーション	授業形態： 演習	授業担当者： 平藤 麻央（単独）	単位数： 2 単位
科目の種別： 必修・教養科目	授業回数： 1 5 回	対象学生： 保育科 2 年	開講学期： 後期
[授業の到達目標及びテーマ] 到達目標：保育現場における英語教育の現状を学び、これからのあり方を考え、現場で活用・運用できる基礎能力を習得する。 テーマ：幼児期に英語に触れ、その先にどうつなげるか？ [授業の概要] 講義 30%、演習 70%、で進めていきます。次の 3 点を中心に学びます。 ① 幼児の歌・・・グループ活動を通して、手遊び・体遊びなどの指導法を考える ② 幼児英語に関する表現（テキスト使用） ④ 今日の英語教育について新聞記事等を参考に幅広い考え方を身に付ける			
[授業計画] 第 1 回：オリエンテーション（Self introduction、授業の進め方、評価等、warm up） 第 2 回： ① 幼児の歌 ② 幼児英語に関する表現 ③ 英語教育の現状 第 3 回： " " " 第 4 回： " " " 第 5 回： " " " 第 6 回： " " " 第 7 回： " " " 第 8 回： " " " (③は適宜行う) 第 9 回： " " " 第 10 回： " " " 第 11 回： " " " 第 12 回： " " " 第 13 回： " " " 第 14 回： " " " 第 15 回：まとめ			
[テキスト] 「起きてから寝るまで子育て英語表現 1 0 0 0」 株式会社アルク			
[参考書・参考文献等] 資料プリントなどは適宜配布する。			
[学生に対する評価] 学習態度・提出物（レポート提出予定あり）・グループ活動での発表			
[履修にあたっての留意点] ・積極的な発話、態度、意欲を重視します。 ・携帯電話を机上に置かないこと（授業中に携帯電話を操作する様子が見られた場合、評価を不可とする）			
[実務経験] 幼稚園や保育園での英語教室講師や高校での英語講師勤務の実務経験をもとに担当する。			

授業科目名： キャリア設計	授業形態： 演習	授業担当者：(複数) 熊谷賢・磯貝友絵・ 富谷彩野・名古屋恒彦	単位数： 2単位
科目の種別： 選択必修・教養科目	授業回数： 15回	対象学生： 保育科2年	開講学期： 前期
[授業の到達目標及びテーマ] 専門職として就職するための心構えを養い、さらに、受験するにあたっての知識や能力を身に付ける。講義や特別講師による講話を通して見分をひろめつつ、自己の進路を主体的に選択し、決定できるようにする。 [授業の概要] 各講義や就職試験対策、特別講師による講話を通して、自己の進路決定に向けての心構え、知識や能力を育てる。			
[授業計画] 第1回： 保育職における就職の状況及び現状の把握 第2回： 就職に向けての振り返り（履歴書等） 第3回： 就職の意義と心構え 第4回： 自己実現と職業選択 第5回： 就職希望状況の確認 第6回： 就職試験の状況把握 第7回： 情報収集の方法 第8回： 自己分析と適性把握 第9回： 面接、訪問時のマナー 第10回： 内定後の対応について 第11回： キャリア設計（キャリアパスについて） 第12回： 模擬試験 第13回： 作文講座 第14回： 就職講話（卒業生など現場の講師による） 第15回： 特別講話（経験者などゲストスピーカーによる）			
[テキスト] 「スイスイわかる保育士採用－専門試験」保育士採用試験情報研究会			
[参考書・参考文献等] 適宜プリントを使用する。			
[学生に対する評価] 提出物、学習態度等から総合的に判断する。			
[履修にあたっての留意点] 就職に向けて、日々自己鍛錬を行い、意欲的に進路決定できるようにしてほしい。			
[実務経験] 保育及び施設等の現場での実務経験を生かし、専門職就職に向けての意識醸成やキャリア設計、将来のキャリアパスに対するイメージ形成へとつながる支援を行う。			

授業科目名： 保健体育（講義）	授業形態： 講義	授業担当者： 富谷 彩野（単独）	単位数： 1 単位
科目の種別： 必修・教養科目	授業回数： 8 回	対象学生： 保育科 1 年	開講学期： 通年
[授業の到達目標及びテーマ] 現代社会が抱える様々な健康問題について理解を深め、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく能力を身につける。 [授業の概要] 現代社会が抱える様々な健康問題について理解を深め、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく能力を育てる。			
[授業計画] 第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：現代社会が抱える様々な健康問題と対策① 第 3 回：現代社会が抱える様々な健康問題と対策② 第 4 回：現代社会が抱える様々な健康問題と対策③ 第 5 回：現代社会が抱える様々な健康問題と対策④ 第 6 回：現代社会が抱える様々な健康問題と対策⑤ 第 7 回：現代社会が抱える様々な健康問題と対策⑥ 第 8 回：まとめ			
[テキスト] 適宜プリントを配布、使用する			
[参考書・参考文献等] 特になし			
[学生に対する評価] 授業態度、筆記試験等から総合的に評価する。			
[履修にあたっての留意点] 「健康」がテーマの授業なので、日々、自分の心身の健康状態を確認しながら、積極的な態度で授業に臨んでほしい。			
[実務経験] 教員として他校種での学校勤務経験や講師経験を生かし、現代社会が抱える様々な健康問題について演習する。			

授業科目名： 保健体育（実技）	授業形態： 実技	授業担当者： 富谷 彩野（単独）	単位数： 1 単位
科目の種別： 必修・教養科目	授業回数： 2 3 回	対象学生： 保育科 1 年	開講学期： 通年
[授業の到達目標及びテーマ] 現在、我が国において私たちを取り巻く生活環境は日々大きく変化し、便利で快適な生活ができるようになった反面、体を動かす機会が徐々に減っていき、様々な健康問題を抱えるようになった。 心身ともに健康な生活を送るために運動が有効な手段であることを理解し、個人が主体的に健康の維持増進を図ることのできる能力を身につける。 [授業の概要] 数多くのスポーツ種目を取り入れ、実際の運動を通して、その意義と喜び、技術、技能を学ばせる。			
[授業計画] 第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：体づくり運動① 第 3 回：体づくり運動② 第 4 回：体づくり運動③ 第 5 回：体づくり運動④ 第 6 回：ニュースポーツ① 第 7 回：ニュースポーツ② 第 8 回：ニュースポーツ③ 第 9 回：ニュースポーツ④ 第 10 回：ラケットスポーツ① 第 11 回：ラケットスポーツ② 第 12 回：ラケットスポーツ③ 第 13 回：ラケットスポーツ④ 第 14 回：ラケットスポーツ⑤ 第 15 回：球技① 第 16 回：球技② 第 17 回：球技③ 第 18 回：球技④ 第 19 回：球技⑤ 第 20 回：リズム運動① 第 21 回：リズム運動② 第 22 回：まとめ① 第 23 回：まとめ②			
[テキスト] 適宜プリントを配布、使用する。			
[参考書・参考文献など] 特になし			
[学生に対する評価] 授業態度、筆記試験等から総合的に評価する。			
[履修にあたっての留意点] 「健康」がテーマの授業なので、日々、自分の心身の健康状態を確認しながら、積極的な態度で授業に臨んでほしい。			
[実務経験] 教員として他校種での学校勤務経験や講師経験を生かし、心身ともに健康な生活を送るための手段である運動について演習する。			

授業科目名： 幼児と健康	授業形態： 講義	授業担当者： 富谷 彩野（単独）	単位数： 2 単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 15 回	対象学生： 保育科 1 年	開講学期： 後期
[授業の到達目標及びテーマ] 健康な心身を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の意義とその必要性を理解し、指導の基盤となる知識、技能、態度の習得を目指す。 [授業の概要] 幼児の心身の発達、基本的生活習慣、安全な生活、運動発達等、幼児期の特徴や意義を踏まえ、その指導方法を理解する。			
[授業計画] 第 1 回：領域「健康」のとらえ方と目指すもの① 第 2 回：領域「健康」のとらえ方と目指すもの② 第 3 回：幼児の発育・発達① 第 4 回：幼児の発達・発育② 第 5 回：幼児の生活習慣と健康 第 6 回：幼児の健康維持・増進のための身体活動① 第 7 回：幼児の健康維持・増進のための身体活動② 第 8 回：保育における運動指導と留意点 第 9 回：健全な発育・発達の測定と評価方法 第 10 回：安全管理と安全教育① 第 11 回：安全管理と安全教育② 第 12 回：幼児の運動遊び①－工夫で広がる運動遊び、運動遊びにかかわる実践 第 13 回：幼児の運動遊び②－工夫で広がる運動遊び、運動遊びにかかわる実践 第 14 回：まとめ① 第 15 回：まとめ②			
[テキスト] 「新時代の保育双書 保育内容 健康（第 2 版）」 春日晃章編集代表 （出版）みらい			
[参考書・参考文献等] 授業中に適宜資料を配布する。 （その他）幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説			
[学生に対する評価] 授業態度、授業における課題レポート等での総合評価とする。			
[履修にあたっての留意点] 幼児の「健康」について、実際の保育場面を想定しながら理解を深めていってほしい。			
[実務経験] 教員として他校種での学校勤務経験や講師経験を生かし、幼児期における「健康」の意義と必要性、その指導法について演習する。			

授業科目名： 幼児と人間関係	授業形態： 講義	授業担当者： 澤瀬 文子（単独）	単位数： 2単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 15回	対象学生： 保育科1年	開講学期： 前期
[授業の到達目標及びテーマ] 幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について学び、他者との関係や集団との関係の中で幼児がいかに人とのかかわる力を培っていくかを理解する。 [授業の概要] 乳幼児期における対人関係の発達過程、向社会的行動の発達の变化、社会的要因の影響、自己理解を促す演習			
[授業計画] 第1回：現代社会の中の幼児 第2回：0歳児の人とのかかわり 第3回：1～2歳児の人とのかかわり 第4回：3歳児以降の人とのかかわり 第5回：遊びの中での人とのかかわり 第6回：生活の中での人とのかかわり 第7回：自立と依存 第8回：事例検討1 第9回：向社会的行動 第10回：グループワーク（自分の持ち味を生かすとは） 第11回：事例検討2 第12回：人とのかかわりが難しい子どもへの支援 第13回：園、家庭、地域の生活と人とのかかわり 第14回：グループワーク（行動原理） 第15回：総括			
[テキスト] 『最新保育講座8保育内容「人間関係」』森上史郎・小林紀子・渡辺英則編 ミネルヴァ書房			
[参考書・参考文献等] 適宜資料配布			
[学生に対する評価] 学習内容の振り返りレポート、授業に取り組む姿勢、試験			
[履修にあたっての留意点] 学生の主体的参加を期待する観点から、教科書の予習を行い自らの実習での体験を踏まえて問題意識を持って臨んでもらいたい。			
[実務経験] 心理職として乳幼児健診等での相談業務に従事した実務経験を活かし、多角的に関係性を見る目を養っていききたい。			

授業科目名： 幼児と環境	授業形態： 演習	授業担当者：(複数) 照井信樹・松好伸一	単位数： 2 単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 15 回	対象学生： 保育科 1 年	開講学期： 前期
[授業の到達目標及びテーマ] 「環境による保育」の理念・意味の理解。環境が幼児の発達にどのような影響を及ぼすのか、また幼児が自ら環境に働きかけるとは等について学び、保育環境についての学びを深める。 [授業の概要] テキスト及びハンドアウトなどを利用し理論学習を進めながら、グループワークを通して様々な考え方を検討する。「誰のための環境なのか」「環境整備の目的とは」など具体的にグループワークに取り組むことで、学びを深めていく。 [授業計画] 第 1 回：保育と「環境」 第 2 回：領域「環境」とは 第 3 回：子どもの育ちと領域「環境」 第 4 回：子どもを取り巻く人的環境・1 第 5 回：子どもを取り巻く人的環境・2 第 6 回：子どもを取り巻く物的環境・1 第 7 回：子どもを取り巻く物的環境・2 第 8 回：子どもを取り巻く社会的環境 第 9 回：子どもを取り巻く自然環境 第 10 回：子どもの生きる力をはぐくむ環境・1 第 11 回：子どもの生きる力をはぐくむ環境・2 第 12 回：子どもを守り育てる環境 第 13 回：気になる子どもと環境 第 14 回：環境を通した教育・保育の現在の課題 第 15 回：まとめ			
[テキスト]「環境構成の理論と実践 保育の専門性に基づいて」高山静子：著 エイデル研究所刊 「保育内容 環境 あなたならどうしますか？」酒井幸子ほか：編著 萌文書林刊			
[参考書・参考文献等] 適宜ハンドアウト等を配布。試験に関する内容のため各自ファイリングし復習すること。			
[学生に対する評価] 講義聴講姿勢、レポート等提出物、グループワークなどへの参加姿勢。			
[履修にあたっての留意点] 保育者として求められる基本姿勢を本講義でも求めていく。			
[実務経験] 仙台市立保育所や大学附属幼稚園勤務の経験および、自身の研究テーマである「森の幼稚園」などから保育における環境に関して、実践と理論の両面からの学びを提供していく。			

授業科目名： 幼児と言葉	授業形態： 講義	授業担当者： 神 常雄（単独）	単位数： 2 単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 15 回	対象学生： 保育科 1 年	開講学期： 前期
[授業の到達目標及びテーマ] 就学前の言語発達を理解し、実際に子どもとかかわる際の教育的配慮（主として言葉を中心としたコミュニケーション）について考えることができるようになる。乳幼児期における言語発達の心理学的理解を測り、この時期における言語教育について考える。 [授業の概要] 新しい幼稚園教育要領・保育指針における領域「言葉」の位置づけと問題の所在、乳幼児の言語の特徴とその発達過程の外観、他の心理諸機能との発達の関連性、社会的諸関係における言語活動の意義、小学校との連続性、および言語発達の障害にも言及する。			
[授業計画] 第 1 回：領域「言葉」のねらいと内容について理解する 第 2 回：言葉の誕生—系統発生及び個体発生から言葉の起源を考える 第 3 回：人間にとって「言葉」とは何か—言葉の意義とその機能 第 4 回：子どもは言葉をどのように獲得するか—誕生から 1 年 第 5 回：子どもは言葉をどのように獲得するか—3 歳まで 第 6 回：子どもは言葉をどのように獲得するか—5 歳まで 第 7 回：内言の発達と書き言葉の準備 第 8 回：小学校教育との接続—対話と読み書き能力の発達 第 9 回：言葉に対する感覚を豊かにする 第 10 回：言葉を育てる保育者の役割と援助 第 11 回：文化財の役割と ICT を活用した視聴覚教材作成の試み 第 12 回：メディアと言葉の発達 第 13 回：言葉の障害と援助の在り方について理解する 第 14 回：領域「言葉」と実践上の留意点 第 15 回：統括			
[テキスト] 『新版・保育内容・言葉』 福沢周亮監修 教育出版			
[参考書・参考文献等] 幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説			
[学生に対する評価] 定期試験、授業中の小テスト、レスポンスカードなど利用			
[履修にあたっての留意点] 発達心理学理論を基礎にことばの発達について理解し、実践的保育場面に即して理解を深めてほしい。			
[実務経験] 大学教員として「幼児の言葉」「発達心理学」を担当した経験をもとに担当します。			

授業科目名： 幼児と表現	授業形態： 演習	授業担当者： 磯貝 友絵（単独）	単位数： 2 単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 15 回	対象学生： 保育科 1 年	開講学期： 前期
[授業の到達目標及びテーマ] 領域「表現」の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身に付ける。 [授業の概要] 領域「表現」について学びながら、様々な音楽活動の体験を通して、自らが表現の過程や楽しさを理解する。また、幼児の遊びや行動の中にみられる音楽的表現を受けとめる視点をもつとともに、幼児が音楽を楽しむための教材や方法など学ぶ。			
[授業計画] 第 1 回：幼児の遊びや生活における表現 第 2 回：領域「表現」のねらい及び内容 第 3 回：領域「表現」のねらい及び内容 第 4 回：幼児の表現の発達 第 5 回：幼児の表現の発達 第 6 回：身近な自然や素材を用いた表現 第 7 回：多様な音楽表現活動 音遊び 第 8 回：多様な音楽表現活動 楽器遊び 第 9 回：多様な音楽表現活動 歌遊び 第 10 回：多様な音楽表現活動 リズム遊び 第 11 回：発達に即した音楽表現活動の展開 第 12 回：発達に即した音楽表現活動の展開 第 13 回：教材の活用 第 14 回：教材の活用 第 15 回：総括			
[テキスト] 「ポケットいっぱいのおうた」教育芸術社・その他適宜プリントを配布する。			
[参考書・参考文献等] 幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説			
[学生に対する評価] 学習内容のまとめのレポート提出と、授業の中での発表の内容で評価する。			
[履修にあたっての留意点] 様々な音楽活動を行うので、常に子どもと楽しむ方法を考えながら積極的な態度で授業に臨んでほしい。			
[実務経験] 教員として他校種での学校勤務経験や現場保育士研修の講師経験を生かし、音楽表現活動やその展開について演習を行う。			

授業科目名： 健康の指導法	授業形態： 演習	授業担当者： 富谷 彩野（単独）	単位数： 1 単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 1 5 回	対象学生： 保育科 2 年	開講学期： 前期
[授業の到達目標及びテーマ] 幼児の健康に関する現状や課題を踏まえ、領域「健康」に関する基本的知識の習得と適切な指導法を身につけることを目指す。 [授業の概要] 幼児の「健康」のねらいや目的の理解と、基本的な生活習慣を基に幼児期の健康の指導に関する知識技能を視聴覚教材や模擬保育のビデオカンファレンスを利用して身につけ、実践的な学びにつなげる。			
[授業計画] 第 1 回：保育における「健康」とは ー幼児教育の基本と領域「健康」のねらい及び内容の理解 第 2 回：子どもの育ちと領域「健康」 ー基本的生活習慣の形成を支える援助 第 3 回：子どもの健康と安全教育 ー安全教育の考え方と計画的な指導法 第 4 回：生活習慣を育む保育実践（計画立案 1） 第 5 回：生活習慣を育む保育実践（教材研究 1） 第 6 回：生活習慣を育む保育実践（模擬保育 1） 第 7 回：生活習慣を育む保育実践（評価と改善 1、模擬保育のビデオカンファレンス） 第 8 回：領域「健康」における環境構成と援助 第 9 回：運動的な遊びを通した保育実践（計画立案 1） 第 10 回：運動的な遊びを通した保育実践（教材研究 1） 第 11 回：運動的な遊びを通した保育実践（模擬保育 1） 第 12 回：運動的な遊びを通した保育実践（評価と改善 1、模擬保育のビデオカンファレンス） 第 13 回：幼児期に育まれる健康な心身と小学校生活で生かされる力の形成 第 14 回：領域「健康」をめぐる現代的課題と保育実践 第 15 回：まとめ			
[テキスト] 『事例で学ぶ保育内容領域「健康」』 無藤 隆監修 倉持清美編者代表 萌文書林			
[参考書・参考文献等] テーマに合わせて準備、授業中に適宜資料を配布する。視聴覚教材使用 その他：幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説			
[学生に対する評価] 授業に取り組む姿勢、授業における課題レポート等での総合評価とする。			
[履修にあたっての留意点] 幼児の「健康」について、実際の保育場面を想定しながら理解を深めていってほしい。			
[実務経験] 保育職として幼児教育の現場での実務経験を基に、子ども理解等の保育の基本の理解ができるよう演習を行う。さらに教員として他校種での学校勤務経験や講師経験を生かし、幼児期における「健康」の意義と必要性、その指導法について演習する。			

授業科目名： 人間関係の指導法	授業形態： 演習	授業担当者： 澤瀬 文子（単独）	単位数： 1 単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 1 5 回	対象学生： 保育科 1 年	開講学期： 後期
[授業の到達目標及びテーマ] 幼児期における人とのかかわる力の形成要因を理解し、幼児の発達にふさわしい保育を具体的に構想し、実践する方法を習得する。 [授業の概要] 幼児教育の基本と領域「人間関係のねらい及び内容、乳幼児期および学童期の社会性の発達、幼児理解に基づいた教材研究や環境構成、模擬保育やロールプレイとその振り返り			
[授業計画] 第 1 回：人とかかわりの基礎を育てるとは 第 2 回：幼稚園教育要領・保育所保育指針における保育の基本 第 3 回：領域「人間関係」の概要 第 4 回：人とかかわる力が育っていくプロセス 第 5 回：子どもたちの気持ちと向き合うとは ―「折り合い」をつけること― 第 6 回：子どもたちの関係を育てる保育 第 7 回：いざこざと保育者の役割 第 8 回：個と集団の育ちと保育者の役割 第 9 回：遊びの中での人とかかわり 第 10 回：ロールプレイを通じて 第 11 回：事例を通じて 第 12 回：人間関係をどう記録するか 第 13 回：さまざまな連携 ―園、家庭、地域― 第 14 回：学童期以降の生活 第 15 回：領域「人間関係」をめぐる諸問題・総括			
[テキスト] 『最新保育講座 8 保育内容「人間関係」』森上史郎・小林紀子・渡辺英則編 ミネルヴァ書房			
[参考書・参考文献等] 「保育資料集」子どもと保育総合研究所 ミネルヴァ書房ほか適宜視聴覚教材使用			
[学生に対する評価] 学習内容の振り返りレポート、授業に取り組む姿勢、試験			
[履修にあたっての留意点] 学生の主体的参加を期待する観点から、教科書の予習を行い自らの実習での体験を踏まえて問題意識を持って臨んでもらいたい。			
[実務経験] 保育園巡回相談員としての実務経験を活かし、より実践的な遊びの提案や支援の方法について演習を行います。			

授業科目名： 環境の指導法	授業形態： 演習	授業担当者：(複数) 照井信樹・松好伸一	単位数： 1 単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 15 回	対象学生： 保育科 1 年	開講学期： 後期
[授業の到達目標及びテーマ] 「環境による保育」の理念・意味の理解。環境が幼児の発達にどのような影響を及ぼすのか、また幼児が自ら環境に働きかけるとは等について学び、保育環境についての学びを深める。 [授業の概要] テキスト及びハンドアウトなどを利用し理論学習を進めながら、グループワークを通して様々な考え方を検討する。「誰のための環境なのか」「環境整備の目的とは」など具体的にグループワークに取り組むことで、学びを深めていく。 [授業計画] 第 1 回：授業ガイダンス・評価の方法など 第 2 回：幼児教育の基本と保育内容「環境」 第 3 回：現代の子どもを取り巻く環境と領域「環境」 第 4 回：子どもの発達と領域「環境」 第 5 回：子どもと園の環境・環境構成と保育者の役割 第 6 回：領域「環境」のねらいと内容の展開の実際 第 7 回：自然に親しみ、植物にふれる保育の実際（フィールドワーク） 第 8 回：自然を取り入れた遊びを考える 第 9 回：標識・文字等に関わる保育の実際 第 10 回：数量・図形等に関わる保育の実際 第 11 回：生活に関係の深い情報や施設に関わる保育の実際 第 12 回：身近な素材を用いた保育の実際（計画立案） 第 13 回：身近な素材を用いた保育の実際（素材収集・製作） 第 14 回：身近な素材を用いた保育の振り返り 環境に関わる現代的課題(グループワーク) 第 15 回：まとめ			
[テキスト] 「環境構成の理論と実践 保育の専門性に基づいて」高山静子：著 エイデル研究所刊 『体験する 調べる 考える 領域「環境」』田宮縁：著 萌文書林刊			
[参考書・参考文献等] 適宜ハンドアウト等を配布。試験に関する内容のため各自ファイリングし復習すること。			
[学生に対する評価] 講義聴講姿勢、レポート等提出物、グループワークなどへの参加姿勢。			
[履修にあたっての留意点] 保育者として求められる基本姿勢を本講義でも求めていく。			
[実務経験] 仙台市立保育所や大学附属幼稚園勤務の経験および、自身の研究テーマである「森の幼稚園」などから保育における環境に関して、実践と理論の両面からの学びを提供していく。			

授業科目名： 言葉の指導法	授業形態： 演習	授業担当者：(複数) 渡邊好美・神常雄	単位数： 1 単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 15 回	対象学生： 保育科 1 年	開講学期： 後期
[授業の到達目標及びテーマ] 領域「言葉」のねらい及び内容を理解し、幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「言葉」に関する具体的な指導場面を想定した保育を構想する具体的・実践的方法を身につける。 [授業の概要] 幼児の言葉に関する現状や課題を踏まえたうえで、領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。そのうえで、アクティブラーニングの視点から具体的場면을想定して保育を構想する方法を身につける。			
[授業計画] 第 1 回：保育における「言葉」とは一領域「言葉」のねらいと内容 第 2 回：子どもの言葉の発達過程一言葉を生む基盤と話し言葉の発達の道筋 第 3 回：書き言葉の発達と小学校におけるその発達 第 4 回：言葉を育む環境構成一聞いたり話したりする言葉の意欲を育てる 第 5 回：言葉を育む環境構成一生活に必要な言葉の習得を支える支援 第 6 回：言葉を育む環境構成一言葉のすれ違いやうまく伝わらない場合への援助 第 7 回：言葉を豊かにする環境構成一言葉による伝えあいを育む援助 第 8 回：言葉を豊かにする環境構成一文字などで伝える楽しさを生み出す援助 第 9 回：絵本や紙芝居などの児童文化財を保育実践においていかに生かすか 第 10 回：言葉に対する感覚を豊かにする実践一言葉遊びの実際と保育 第 11 回：子どもの言葉を育む保育の実際一保育観察と教材研究 第 12 回：子どもの言葉を育む保育の構想一指導案の作成 第 13 回：子どもの言葉を育む保育の実践 第 14 回：子どもの言葉を育む保育の評価と改善 第 15 回：子どもの言葉を育み、豊かにする保育一特別な配慮を必要とする幼児への指導と保育実践例			
[テキスト] 『新版・保育内容・言葉』 福沢周亮監修 教育出版			
[参考書・参考文献等] 幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説			
[学生に対する評価] 学習意欲、課題レポート、試験などで総合的に評価する。			
[履修にあたっての留意点] ことばの発達について保育実践の事例に学びながら、特に教材研究・指導案の作成・保育の評価について理解を深めてほしい。			
[実務経験] 保育職として幼児教育の現場での実務経験を基に、領域「言葉」のねらいと内容の理解や言葉にかかわる具体的な保育内容の指導法について演習を行う。			

授業科目名： 表現の指導法Ⅰ	授業形態： 演習	授業担当者： 磯貝 友絵（単独）	単位数： 1 単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 15 回	対象学生： 保育科 1 年	開講学期： 後期
[授業の到達目標及びテーマ] 領域「表現」について理解を深め、様々な音楽表現活動の経験を通して、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 [授業の概要] 幼児の音楽表現に関わる事例を通して、幼児の音楽表現の特徴や発達への理解を深める。また、様々な音楽表現活動を経験し教材の活用や指導法を学び、音楽表現に関わる保育の計画・実践と振り返りを通して、指導方法を実践的に学ぶ。			
[授業計画] 第 1 回：領域「表現」と音楽表現 第 2 回：幼児の音楽的表現の発達 第 3 回：音楽表現活動の小学校との学びの連続性 第 4 回：音楽表現活動の指導法 歌唱 第 5 回：音楽表現活動の指導法 歌遊び 第 6 回：音楽表現活動の指導法 歌遊び 第 7 回：音楽表現活動の指導法 楽器遊び 第 8 回：音楽表現活動の指導法 リズム遊び 第 9 回：音楽表現活動のねらいと評価を考える 第 10 回：音楽表現活動を考える 第 11 回：音楽表現活動を考える 第 12 回：音楽表現活動の実践 第 13 回：音楽表現活動の実践 第 14 回：音楽表現活動の実践 第 15 回：統括			
[テキスト] 「ポケットいっぱいのおうた」教育芸術社、その他プリントを適宜配布する。			
[参考書・参考文献等] 幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説			
[学生に対する評価] 課題レポート、活動に取り組む態度及び活動案の作成と、実践の発表内容			
[履修にあたっての留意点] 様々な音楽活動を行うので、常に子どもと楽しむ方法を考えながら、積極的に授業に臨んでほしい。			
[実務経験] 教員として他校種での学校勤務経験や現場保育士研修の講師経験を生かし、音楽表現活動やその展開について演習を行う。			

授業科目名： 表現の指導法Ⅱ	授業形態： 演習	授業担当者： 伊藤 麻紀(単独)	単位数： 2単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 15回	対象学生： 保育科1年	開講学期： 後期
[授業の到達目標及びテーマ] 幼児の発達を造形表現の側面から学ぶことで、発達段階に応じた援助への理解を深める。 実技や教材づくりを通じ、具体的な指導法について考え技能を修得する。 [授業の概要] 幼児の発達をふまえて用具の使用法や環境構成を自発的に考え、製作を行う。他の人の表現に触れることで効果的な言葉かけや表現の受け止めを考え、指導法について学ぶ。			
[授業計画] 第1回：幼児の絵画表現の発達（1）スクリブルの体験 第2回：幼児の絵画表現の発達（2）形とイメージを結ぶ表現 第3回：幼児の絵画表現の発達（3）図式期について 第4回：幼児の絵画表現の発達（4）観察画を描こう 第5回：言語表現教材と造形活動（1）自己紹介カードの計画 第6回：言語表現教材と造形活動（2）自己紹介カードの製作 伝える表現の工夫 第7回：言語表現教材と造形活動（3）自己紹介カードの製作 デザインと構成について 第8回：言語表現教材と造形活動（4）演技方の工夫 第9回：子どもの発達に即した活動の工夫（1）折り方図をつくる 子どもに伝わる表現 第10回：子どもの発達に即した活動の工夫（2）折り方図をつくる 意欲を育むデザイン 第11回：造形活動の実践（1）活動の体験「はじき絵のジュース屋さん」 第12回：造形活動の実践（2）活動の準備「クレヨンのお散歩から」 第13回：造形活動の実践（3）活動の実践「クレヨンのお散歩から」 第14回：造形活動の実践（4）活動の振り返り「クレヨンのお散歩から」 第15回：造形活動の実践（5）まとめと課題の共有			
[テキスト] 使用しない			
[参考書・参考文献等] 幼稚園教育要領ハンドブック、認定こども園教育・保育要領ハンドブック、保育所保育指針ハンドブック			
[学生に対する評価] 作品提出、活動のまとめレポート提出、授業への参加状況で総合的に評価する。			
[履修にあたっての留意点] 制作にあたっては園児たちとの活動が前提であることを忘れないこと。作る過程を各自スケッチブック、プリント等へ書きとめ、振り返りやグループで評価を行う。			
[実務経験] 大学教員養成課程での演習補助や、保育園、児童館等での子育て支援講座の講師経験を活かし、幼児の発達をふまえた造形表現活動の指導法について演習を行う。			

授業科目名： 表現技術 I	授業形態： 演習	授業担当者：(複数) 磯貝友絵・高橋摩利子 菅原智恵・八木絵未	単位数： 1 単位
科目の種別： 選択必修・専門科目	授業回数： 15 回	対象学生： 保育科 2 年	開講学期： 前期
[授業の到達目標及びテーマ] 音楽で習得した音楽的基礎知識や技能をもとに、より高度の幼児音楽教育技術を身につける。曲想や音楽を特徴づけている要素を感じ取って表現ができるようにする。 また、鑑賞などにより音楽体験の幅を広げ音楽の楽しみを見出す。 [授業の概要] 様々なピアノ曲や、子どもの歌の弾き歌いに取り組み、ピアノ技能を高めるとともに子どもの音楽活動を支えるピアノ伴奏、歌唱表現も学ぶ。			
[授業計画] 第 1 回：授業の概要について、子どもの歌の弾き歌い（実習で使う曲） 第 2 回：調、練習曲、子どもの歌の弾き歌い（実習で使う曲） 第 3 回：主要三和音、練習曲、子どもの歌の弾き歌い（実習で使う曲） 第 4 回：主要三和音、練習曲、子どもの歌の弾き歌い（実習で使う曲） 第 5 回：コードネーム、練習曲 第 6 回：鑑賞 第 7 回：コードネーム、練習曲、子どもの歌の弾き歌い（季節の歌） 第 8 回：コード伴奏、練習曲、子どもの歌の弾き歌い(季節の歌) 第 9 回：コード伴奏、子どもの歌の弾き歌い(季節の歌) 第 10 回：コード伴奏、子どもの歌の弾き歌い(季節の歌) 第 11 回：音楽用語、子どもの歌の弾き歌い(自由曲) 第 12 回：子どもの歌の弾き歌い(自由曲) 第 13 回：子どもの歌の弾き歌い(自由曲) 第 14 回：子どもの歌の弾き歌い(自由曲) 第 15 回：まとめ			
[テキスト] 「大学ピアノ教本」 「ポケットいっぱいのうた」 教育芸術社			
[参考書・参考文献等] 特になし			
[学生に対する評価] 授業担当者全員による評価。主に実技試験で評価する。但し、レッスン時の態度、普段の練習に対する意欲など加味する。			
[履修にあたっての留意点] 必ず練習してから授業に臨むこと。			
[実務経験] ピアノ教室でのピアノ指導経験や他校種での音楽教育の実務経験を生かし、ピアノ実技指導や歌唱表現指導等行う。			

授業科目名： 表現技術Ⅱ	授業形態： 演習	授業担当者： 伊藤麻紀(単独)	単位数： 2単位
科目の種別： 選択必修・専門科目	授業回数： 15回	対象学生： 保育科2年	開講学期： 前期
[授業の到達目標及びテーマ] 領域「表現」のねらい及び内容に則した保育活動を実践するため、実際の子どもの姿を想像しながら活動の様々な場面に対応できる具体的な造形技術を身に付ける。 [授業の概要] 多様な造形表現技法を経験し、材料、用具を効果的に使う方法を知る。 保育活動を豊かにする造形技術について考え、取り組みの具体的方法やその発展、他領域とのつながりについて考える。			
[授業計画] 第1回：造形表現の多様な手法 材料体験（1）スタンプ遊び（準備） 第2回：造形表現の多様な手法 材料体験（2）スタンプ遊び 第3回：造形表現の多様な手法 材料体験（3）クレヨンフロッタージュ 第4回：造形表現の多様な手法 材料体験（4）パステル、コンテ 第5回：造形表現の多様な手法 材料体験（5）マーブリング（墨流し） 第6回：子どもの遊びと表現 つくって遊ぶ活動 第7回：子どもの遊びと表現 遊びの発展への援助 第8回：遊びを豊かにする造形 おもちゃづくり （1）発達に即したおもちゃの計画 第9回：遊びを豊かにする造形 おもちゃづくり （2）適切な材料の準備と用具の使用法 第10回：遊びを豊かにする造形 おもちゃづくり （3）安全性に配慮した組立て 第11回：遊びを豊かにする造形 おもちゃづくり （4）仕組みを楽しむ 第12回：遊びを豊かにする造形 おもちゃづくり （5）遊びの体験とまとめ 第13回：演じる表現の援助 衣装の製作 （1）総合的な表現活動における援助 第14回：演じる表現の援助 衣装の製作 （2）機能と意匠 第15回：演じる表現の援助 衣装の製作 （3）作品鑑賞とまとめ			
[テキスト] 使用しない			
[参考書・参考文献等] 幼稚園教育要領ハンドブック、認定こども園教育・保育要領ハンドブック、保育所保育指針ハンドブック			
[学生に対する評価] 作品提出、活動のまとめレポート提出、授業への参加状況で総合的に評価する。			
[履修にあたっての留意点] 授業で行う活動の全てが自らの保育活動につながることを念頭に置き、積極的に取り組んで欲しい。			
[実務経験] 大学教員養成課程での演習補助や、保育園、児童館等での子育て支援講座の講師経験を活かし、保育の場での造形表現活動の具体的方法について演習を行う。			

授業科目名： 保育内容総論	授業形態： 演習	授業担当者：(複数) 磯貝友絵・渡邊好美 現役保育者他	単位数： 2単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 15回	対象学生： 保育科1年	開講学期： 前期
[授業の到達目標及びテーマ] 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解し、さらに各章のつながりや保育の全体的な構造の理解を促す。 [授業の概要] 保育の学びのスタートである学生が、保育及び施設の現場の状況を具体的にイメージし、保育内容を理解できるようにするため、各方面で実務に携わっている先生による講義及び演習を中心とする。			
[授業計画] 第1回：保育内容とは 第2回：保育所保育指針における保育内容（幼保連携型認定こども園教育・保育要領含む） 第3回：幼稚園教育要領における保育内容（　　　　　　　　　〃　　　　　　　　　） 第4回：保育内容の実際①（保育者のかかわり・環境構成他） 第5回：保育所保育について（現役保育士） 第6回：　　　　　〃　　　　　　　　　（　　　〃　　　） 第7回：幼稚園教育について（現役幼稚園教諭） 第8回：　　　　　〃　　　　　　　　　（　　　〃　　　） 第9回：児童養護施設の現状（児童養護施設・施設長） 第10回：児童養護施設の生活と支援（　　　　　〃　　　　　） 第11回：障害児・者施設の現状（障害者施設・施設長） 第12回：障害児・者の生活と支援（　　　　　〃　　　　　） 第13回：保育内容の実際②（事例研究・教材研究） 第14回：保育内容の実際③（　　　　　〃　　　　　） 第15回：まとめ			
[テキスト] 特になし			
[参考書・参考文献等] 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 「幼稚園教育要領ハンドブック」「保育所保育指針ハンドブック」 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領ガイドブック」			
[学生に対する評価] 講師による講義のまとめをレポート提出し、その内容から評価する。			
[履修にあたっての留意点] 専門職に携わる講師による演習から、実際の保育内容を学びつつ、見聞を広める機会にしてほしい。			
[実務経験] 保育職として幼児教育の現場での実務経験を基に、保育の全体構造の理解を援助する。			

授業科目名： 乳児保育Ⅰ	授業形態： 講義	授業担当者： 澤瀬 文子（単独）	単位数： 2単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 15回	対象学生： 保育科1年	開講学期： 前期
[授業の到達目標及びテーマ] 乳児保育への社会的期待の高まりや制度的変化を踏まえて、実践の基礎となる基本的知識を学習する [授業の概要] 乳児の発達と保育、乳児保育の内容と方法、子どもの発達・親の発達、乳児保育の現状と課題			
[授業計画] 第1回：発達における乳児期の重要性 第2回：0歳児の発達の特徴と保育の中で大切にしたいこと 第3回：1歳児の発達の特徴と保育の中で大切にしたいこと 第4回：2歳児の発達の特徴と保育の中で大切にしたいこと 第5回：基本的生活の内容と方法 ①0歳児 第6回：基本的生活の内容と方法 ②1歳児 第7回：基本的生活の内容と方法 ③2・3歳児 第8回：遊びの特徴と内容 第9回：保育計画・指導計画 第10回：乳児保育と「3歳児神話」 第11回：親としての発達 第12回：乳児保育の歩みと現状 第13回：子育て家庭の実情と子育て支援 第14回：新たな共生に向けて 第15回：総括			
[テキスト] 「新版資料で分かる乳児の保育新時代」（乳児保育研究会編、ひとなる書房）			
[参考書・参考文献等] 「保育資料集」子どもと保育総合研究所 ミネルヴァ書房 ほかに適宜視聴覚教材使用			
[学生に対する評価] 授業に取り組む姿勢、レポート、試験			
[履修にあたっての留意点] 学生の主体的参加を期待する観点から、教科書の予習を行い自らの実習での体験を踏まえて問題意識を持って臨んでもらいたい。			
[実務経験] 心理職として乳幼児健診等での相談業務に従事した実務経験を活かし、子どもの発達の変化とそれに対応した大人のかかわりについて講義する。			

授業科目名： 乳児保育Ⅱ	授業形態： 演習	授業担当者： 松好 伸一（単独）	単位数： 1 単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 15 回	対象学生： 保育科 1 年	開講学期： 後期
[授業の到達目標及びテーマ]※本科目における乳児保育とは 3 歳未満児を念頭に置いた保育を示す ・ 3 歳未満児の発育・発達過程や特性を踏まえた援助や関わりや基本的な考え方について理解する ・ 養護および教育の一体性を踏まえ、3 歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する ・ 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する [授業の概要] 乳児保育のテキストやハンドアウトだけでなく、演習やグループワークを通してより具体的な乳児保育の理解を深める。 保育士として基本的スキルを身につけ、子どもの発達支援をする専門職としての意識を高める			
[授業計画] 第 1 回：授業ガイダンス及び評価等について。出席率、態度、試験等評価に関すること。 第 2 回：乳児保育の基本 第 3 回：1 日の流れで考える生活・遊びと環境の構成 第 4 回：1～3 歳未満児の発育・発達を踏まえた生活、遊びの援助の実際 第 5 回：乳児保育における配慮の実際 第 6 回：乳児保育における計画と実際 第 7 回：朝の受け入れ(実践) 第 8 回：食事(実践) 第 9 回：睡眠(実践) 第 10 回：排せつ(実践) 第 11 回：着脱・清潔(実践) 第 12 回：遊び(実践) 第 13 回：午後のお迎え・お帰り(実践) 第 14 回：グループワークによる実践への向き合い方 第 15 回：本講義のまとめ			
[テキスト] 保育士を育てる「乳児保育Ⅱ」一藝社刊 ※ハンドアウトは適宜配布する			
[参考書・参考文献等] 保育所保育指針または幼保連携型認定こども園教育・保育要領 保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説			
[学生に対する評価] 講義聴講姿勢、レポート等提出物、GW などへの参加姿勢。			
[履修にあたっての留意点] 保育者として求められる基本姿勢を本講義でも求めていく。			
[実務経験] 公立保育所に勤務した経験から、保育所における乳児保育の実際や保護者の相談への対応等、保育現場であったことを交え、乳児への対応について講義する。また、児童発達支援事業所の実務経験から、子どもの発達の援助の仕方や基本的な生活習慣に関する支援の仕方などを講義に取り入れていく。			

授業科目名： 社会的養護Ⅱ	授業形態： 演習	授業担当者： 名古屋恒彦（単独）	単位数： 2 単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 15 回	対象学生： 保育科 2 年	開講学期： 後期
[授業の到達目標及びテーマ] 社会的養護の内容、実際、支援の計画と記録及び自己評価、専門的技術など、実践的な事項を理解する。 [授業の概要] 社会的養護における子ども理解、支援理解、各施設等での生活と実際、アセスメント等、専門的技術などについて学習する。教科書を中心に授業を進めるが、トピックや関連領域（障害福祉、特別支援教育等）についても触れる。必要に応じてグループ協議も行う。			
[授業計画] 第 1 回：社会的養護における子ども理解 第 2 回：日常生活支援とは何か 第 3 回：治療的支援とは何か 第 4 回：自立支援とは何か 第 5 回：児童養護施設、乳児院での生活と実際 第 6 回：児童自立支援施設、児童心理治療施設、母子生活支援施設での生活と実際 第 7 回：障害児施設での生活と実際 第 8 回：家庭養護等での生活と実際 第 9 回：アセスメントと自立支援計画の作成 第 10 回：社会的養護における記録・自己評価 第 11 回：保育の専門性にかかわる知識・技術とその実践 第 12 回：社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践 第 13 回：社会的養護における家庭支援 第 14 回：社会的養護の課題と展望 第 15 回：まとめ～社会的養護の理念の発展に向けて自立を再考する			
[テキスト] 『社会的養護Ⅰ・Ⅱ』（谷口純世・加藤洋子・志濃原亜美編著 光生館）			
[参考書・参考文献等]			
[学生に対する評価] 授業での発言、小レポート及び期末試験によって評価します。			
[履修にあたっての留意点] 新聞や実践現場などでの社会的養護に関する記事や情報を、関心をもって読んでください。			
[実務経験] 養護学校教諭 11 年、特別支援学校校長 3 年、社会福祉法人評議員 2 年（継続中）など			

授業科目名： 社会福祉	授業形態： 講義	授業担当者： 佐々木 千枝（単独）	単位数： 2 単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 15 回	対象学生： 保育科 1 年	開講学期： 前期
[授業の到達目標及びテーマ] 社会福祉の意義について、歴史・制度の側面から学びます。また、現代の多様な家庭における子どもの支援について、保育士として必要な利用者の理解、支援方法を学んでいきます。 [授業の概要] 上記のテーマに沿って、講義形式にて、分かりやすく皆さんにお伝えします。一緒に、これから関わる子どもと子どもをとりまく環境について、社会福祉の視点から学んでいきましょう。			
[授業計画] 第 1 回：社会福祉の理念と歴史的変遷 第 2 回：子ども家庭支援と社会福祉 第 3 回：社会福祉の制度と法体系 第 4 回：社会福祉行財政と実施機関、社会福祉施設等 第 5 回：社会福祉の専門職 第 6 回：社会保障および関連制度の概要 第 7 回：相談援助の理論 第 8 回：相談援助の意義と機能 第 9 回：相談援助の対象と過程 第 10 回：相談援助の方法と技術 第 11 回：社会福祉における利用者の保護にかかわるしくみ 第 12 回：少子高齢化社会にける子育て支援 第 13 回：共生社会の実現と障害者施策 第 14 回：在宅福祉・地域福祉の推進 第 15 回：諸外国の社会福祉の動向			
[テキスト] 「社会福祉（新・基本保育シリーズ④）」 中央法規			
[参考書・参考文献等] 必要に応じて、随時、資料を配布します。			
[学生に対する評価] 授業への姿勢、小レポート、試験で総合的に評価します。			
[履修にあたっての留意点] 授業中にディスカッションすることや、小レポート記入の時間を設けることがあります。			
[実務経験] 障害者支援施設で勤務した経験と、現在スクールソーシャルワーカーとして活動している内容をもとに、社会福祉について話をします。また、アメリカ・デンマーク・ノルウェーでの視察の経験も踏まえながら、海外の福祉についてお話しします。			

授業科目名： 子育て支援	授業形態： 演習	授業担当者： 松好 伸一（単独）	単位数： 1 単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 15 回	対象学生： 保育科 2 年	開講学期： 前期
[授業の到達目標及びテーマ] 保育所における子育て支援は保育士の職務の一つとなっている。「保護者に寄り添うこととは」「子育てを支援することとは」などについて、保育士としてできることを演習を通して考えていく。 [授業の概要] 乳児保育のテキストやハンドアウトだけでなく、演習やグループワークを通してより具体的な乳児保育の理解を深める。 保育士として基本的スキルを身につけ、子どもの発達支援をする専門職としての意識を高める。			
[授業計画] 第 1 回：子育て支援とは 第 2 回：子育て支援の意義 第 3 回：子育て支援の基本的価値・倫理 第 4 回：子育て支援の基本的姿勢 第 5 回：子育て支援の基本的技術 第 6 回：園内・園外との連携と社会資源 第 7 回：記録・評価・研修 第 8 回：日常会話を活用した子育て支援 第 9 回：文書を利用した子育て支援 第 10 回：行事などを活用した子育て支援 第 11 回：環境を活用した子育て支援 第 12 回：地域子育て支援拠点における支援 第 13 回：入所施設における子育て支援 第 14 回：通所施設における子育て支援 第 15 回：まとめ			
[テキスト] 保育士を育てる「子育て支援」「子ども家庭支援論」 ※ハンドアウトは適宜配布する			
[参考書・参考文献等] 保育所保育指針または幼保連携型認定こども園教育・保育要領 保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説			
[学生に対する評価] 講義聴講姿勢、レポート等提出物、GW などへの参加姿勢。			
[履修にあたっての留意点] 保育者として求められる基本姿勢を本講義でも求めている。			
[実務経験] 公立保育所に保育士として勤務したことから、保育所における保護者の相談への対応等、実際に保育現場であったことを交えながら講義する。また、児童発達支援事業所（当時は母子通園事業）に通園する障害が疑われる 0 歳から 3 歳児までを担当した経験から、健常児よりも発達の速度が遅い子どもを抱える保護者への支援を講義に取り入れていく。			

授業科目名： 子ども家庭福祉	授業形態： 講義	授業担当者： 小川 博敬（単独）	単位数： 2 単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 15 回	対象学生： 保育科 1 年	開講学期： 前期
[授業の到達目標及びテーマ] 1. こども家庭福祉に関する理念と制度を理解する。 2. 問題が発生している社会的背景について理解し、説明できる。 3. 実際の事例に関わった際に、支援方法や問題解決の方向性がイメージできる。 [授業の概要] こども家庭福祉とは、子どもと家庭に対し「人間における尊厳性の原則」「無差別平等の原則」「自己実現の原則」を理念として、住民や専門職・関係機関が行う実践と法制度である。この授業では児童虐待・発達障がいなどの今日的課題を取り上げつつ、問題の社会的背景もふまえて理解することをねらいとする。			
[授業計画] 第 1 回：現代社会におけるこども家庭福祉の理念 第 2 回：こども家庭福祉の歴史的変遷と諸外国の動向 第 3 回：児童の人権擁護とこども家庭福祉 第 4 回：こども家庭福祉の制度と実施体制 第 5 回：児童家庭福祉の施設と専門職 第 6 回：児童虐待防止法①日本における児童虐待の歴史的変遷 第 7 回：児童虐待防止法②諸外国における児童虐待の歴史的変遷 第 8 回：児童虐待防止法③児童虐待の定義 第 9 回：児童虐待防止法④支援・連携のあり方 第 10 回：社会的養護 第 11 回：少年非行等への対応 第 12 回：障がいのある児童への支援①障がい特性の理解 第 13 回：障がいのある児童への支援②根拠のある支援方法 第 14 回：障がいのある児童への支援③家庭支援の実際 第 15 回：児童家庭福祉とソーシャルワーク			
[テキスト] 使用しない（授業の最初に資料を配布する）。			
[参考書・参考文献等]			
[学生に対する評価] 定期試験 70%、レスポンスペーパー30%			
[履修にあたっての留意点] 子ども家庭福祉に関するニュースについて、新聞等から情報収集しておくこと。			
[実務経験] 児童施設指導員、スクールソーシャルワーカー及び相談支援専門員としての経験を活かし、問題の見立てと解決方法について、具体例を示しながら講義を展開する。			

授業科目名： 子どもの保健	授業形態： 講義	授業担当者：(単独) 都鳥 和理	単位数： 2 単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 15 回	対象学生： 保育科 2 年	開講学期： 前期
[授業の到達目標及びテーマ] 1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 2. 子どもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について理解する。 3. 子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解する。 [授業の概要] 本授業の概要・計画は下記のとおりである。			
[授業計画] 第 1 回：子どもの発達・発育（1） 第 2 回：子どもの発達・発育（2） 第 3 回：子どもの発達・発育（3） 第 4 回：生理機能（1） 第 5 回：生理機能（2） 第 6 回：生理機能（3） 第 7 回：生理機能（4） 第 8 回：小児の主な病気（1） 第 9 回：小児の主な病気（2） 第 10 回：小児の主な病気（3） 第 11 回：小児の主な病気（4） 第 12 回：小児の主な病気（5） 第 13 回：小児の主な病気（6） 第 14 回：小児の主な病気（7） 第 15 回：まとめ			
[テキスト] 「子どもの保健Ⅰ」 佐藤 益子編著 ななみ書房			
[参考書・参考文献等] 特になし			
[学生に対する評価] 普段の授業態度、テスト及びレポートなどで評価する。			
[履修にあたっての留意点] 講義で強調した事項をよく筆記（ノート記入）し、理解すること。			
[実務経験] 小児科医として勤務している経験を生かし、最新の小児医学の情報をおりまぜて講義する。			

授業科目名： 子どもの健康と安全	授業形態： 演習	授業担当者： 佐々木 祐子（単独）	単位数： 1 単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 15 回	対象学生： 保育科 2 年	開講学期： 後期
[授業の到達目標及びテーマ] 子ども一人ひとりが健康で安全な生活をするための、健康支援（保健活動の計画及び評価、健康状態並びに発育及び発達、健康増進、疾病への対応）、食育の推進（食育の環境の整備）、環境及び衛生管理並びに安全管理、災害への備え等について、保育者として具体的に実践できるようにする。 [授業の概要] 保育所全体における健康及び安全の確保について、また、実際に子どもと接することを想像しながら、子どもが自らの体や健康に関心をもち、心身の機能を高めていけるような方法等を学ぶ。			
[授業計画] 第 1 回：保育所保育方針の目指すもの、保育士養成課程について 第 2 回：子どもの健康と保育の環境 第 3 回：個別対応と集団全体の健康および安全の管理 第 4 回：衛生管理 第 5 回：事故防止および安全対策、危機管理、災害への備え 第 6 回：体調不良が発生した場合の対応 第 7 回：緊急を要する状況への対処方法、救命手当および救急蘇生法 第 8 回：感染症対策・集団発生の予防 第 9 回：感染症発生時と罹患後の対応、疾病の支援体制 第 10 回：保育における保健的対応 第 11 回：障害のある子どもへの対応 第 12 回：職員間の連携・協働と組織的取り組み 第 13 回：保健活動の計画および評価 第 14 回：地域との連携 第 15 回：まとめ			
[テキスト] 「子どもの健康と安全」 伊澤昭治、稲坂恵著 学建書院			
[参考書・参考文献等] 保育所保育指針解説 子どもの保健 保育現場における感染症の知識と対応 子どもの事故と応急手当 保育事故対応マニュアル			
[学生に対する評価] レポート提出、定期考査			
[履修にあたっての留意点] 子どもの生命を預かる保育者という意識を念頭におきながら、保健的知識や技術を学んでほしい。			
[実務経験] 看護師としての総合病院での救急対応、感染症予防対策・医療安全対策管理等の経験を生かし、園児の健康及び安全について講義・演習を行います。			

授業科目名： 子ども家庭支援論	授業形態： 講義	授業担当者： 澤瀬 文子（単独）	単位数： 2単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 15回	対象学生： 保育科2年	開講学期： 後期
[授業の到達目標及びテーマ] 子育てをしている家庭及び地域をも視野に入れた支援の基本と重要性を理解し、その支援方法について学習する [授業の概要] 家庭支援の対象と役割、子どもと家庭、保育士による家庭支援、保育所・幼稚園における家庭支援、在宅子育て家庭への支援、要保護児童とその家庭への支援			
[授業計画] 第1回：家庭支援が求められる背景 第2回：家庭支援の対象と役割 第3回：現代家庭を取り巻く社会状況 第4回：少子社会と家族 第5回：保育士による家庭支援 第6回：家庭支援の展開 第7回：子どもと家庭を支援するサービス 第8回：我が国の子育て支援政策の流れ 第9回：保育所における子育て支援 第10回：幼稚園における子育て支援 第11回：在宅子育て家庭への支援 第12回：家庭支援の実際 ①障害を持つ子ども 第13回：家庭支援の実際 ②虐待 第14回：家庭支援の実際 ③保育に関する相談・助言 第15回：総括			
[テキスト] 「よくわかる家庭支援論」（橋本真紀、山縣文治編 ミネルヴァ書房）			
[参考書・参考文献等] 「保育資料集」子どもと保育総合研究所 ミネルヴァ書房 ほか適宜視聴覚教材使用			
[学生に対する評価] 授業に取り組む姿勢、レポート、試験			
[履修にあたっての留意点] 学生の主体的参加を期待する観点から、教科書の予習を行い自らの実習での体験を踏まえて問題意識を持って臨んでもらいたい。			
[実務経験] 保育園巡回相談員としての実務経験をもとに、家庭支援が求められる社会的背景と併せて継続的な支援の方法について学ぶ。			

授業科目名： 子どもの食と栄養	授業形態： 演習	授業担当者： 昆 洋子（単独）	単位数： 2 単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 3 0 回	対象学生： 保育科 2 年	開講学期： 通年
[授業の到達目標及びテーマ] 1 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。 2 食育の基本とその内容を理解する。 [授業の概要] 1 栄養の基礎知識 2 小児の栄養・食生活 3 子どもたちの栄養の実態 4 食育			
[授業計画] 第 1 回：小児の栄養と食生活の意義 第 2 回：小児の発育・発達と栄養 第 3 回：栄養に関する基礎知識 第 4 回：乳児期の食生活 第 5 回：幼児期の食生活 第 6 回：学齢期の食生活 第 7 回：思春期の食生活 第 8 回：生涯発達と食生活 第 9 回：エネルギーと栄養素 第 10 回：ライフサイクルと栄養素 第 11 回：疾病および体調不良の子どもへの対応 第 12 回：食物アレルギーをもつ子どもへの対応 第 13 回：障害をもつ小児の食生活 第 14 回：児童福祉施設と家庭の食生活の連携 第 15 回：保育所の食生活 第 16 回：保育における食育の意義 第 17 回：食育の内容 第 18 回：食育のための環境 第 19 回：食育の計画 第 20 回：乳汁栄養 第 21 回：離乳食 第 22 回：食物アレルギー 第 23 回：肥満児の食事 第 24 回：食品 第 25 回：食材 第 26 回：食に関する事例① 第 27 回：食に関する事例② 第 28 回：食に関する事例③ 第 29 回：延長保育と補食 第 30 回：食中毒			
[テキスト] 「子どもの食生活」 ななみ書房			
[参考書・参考文献等] 特になし			
[学生に対する評価] 授業態度、課題提出、試験などで評価する。			
[履修にあたっての留意点] 「食」に関する情報を積極的に収集する姿勢をもつこと。			
[実務経験] 高校の家庭科教諭として勤務している実務経験をもとに、食や栄養の専門的分野を講義します。			

授業科目名： 保育実習Ⅰ	授業形態： 実習	授業担当者： 保育科専任（複数）	単位数： 4単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数：	対象学生： 保育科1年	開講学期： 後期
[授業の到達目標及びテーマ] 1 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 2 子どもの観察や記録、子どもへの援助やかかわりを通して“子ども理解”を深めるようにする。 3 既習の教科の内容を踏まえ保育及び保護者への支援についても総合的に学ぶ。 4 保育の計画、観察、記録及び自己評価について具体的に理解する。 5 保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ。 [授業の概要] 概要・計画は、下記のとおり。			
[授業計画] 1 実習時期 1年後期 2 日数 20日間 10日間（保育所） 10日間（施設） 3 実習施設 保育所及び乳児院 母子生活支援施設 児童養護施設 障害児入所支援施設 児童自立支援施設 児童発達支援センター 情緒障害児短期治療施設 障害者支援施設 児童相談所一時保護施設 指定障害者福祉サービス事業所 又は独立行政法人国立知的障害者総合施設のぞみの園 4 実習内容 ① 実習オリエンテーション ② 観察実習・参加実習・責任実習 ③ 部分実習（手遊び・絵本や紙芝居の読み聞かせ） ④ 部分実習（活動の計画と実施） ⑤ 記録・反省評価			
[テキスト] 「教育・保育実習安心ガイド」阿部 恵・鈴木みゆき著 ひかりのくに 「施設実習ガイド」駒井美智子編 萌文書林 「最新保育資料集」「保育用語辞典」ミネルヴァ書房 「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 「幼稚園教育要領ハンドブック」学研 「保育所保育指針解説」フレーベル館 「保育所保育指針ハンドブック」学研 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領ハンドブック」学研 「新版 日用語新字典」高橋書店			
[参考書・参考文献等] 特になし			
[学生に対する評価] 実習評価の結果の他、報告書の提出等を考慮し評価する。			
[履修にあたっての留意点] 保育の実践を学ぶ実習であるので、欠席はもちろん遅刻などしないように注意すること。また、実習日誌等の提出期限は厳守すること。			
[実務経験] 保育職としての現場経験や各専門分野を生かして、実習指導者と連携し、巡回訪問指導において、実習内容について確認・助言する。			

授業科目名： 保育実習指導Ⅰ	授業形態： 演習	授業担当者： 保育科専任（複数）	単位数： 2単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 40回	対象学生： 保育科1年	開講学期： 通年

[授業の到達目標及びテーマ]

保育実習指導Ⅰの目標は、保育実習の意義・目的を理解することである。次に実習内容については、実習段階を踏んで理解していき、自分の課題を明確にする。また実習に際しての守秘義務等について理解を促すと共に実習生としての心構えをもてるようにする。

さらに実習における観察、記録、評価及び計画について具体的に理解していく。

事後指導としては、報告会、事後の書類整理、課題の明確化、実習評価のスーパーバイズ等を行い、次の実習指導につなげていく。

[授業の概要]

概要・計画は右記のとおり。

[授業計画]

- 第1回：保育実習について(目的・概要・日程)
- 第2回：保育のこころとマナー(DVD)
- 第3回：児童福祉施設の機能と役割(DVD)
- 第4回：実習体験を通して学ぶ(DVD)
- 第5回：保育園実習の実際、実習保育園希望調査
- 第6回：施設実習の実際、実習園希望調査
- 第7回：保育実習の段階、実習ノートについて①
- 第8回：実習計画（部分実習指導案について）
- 第9回：保育園見学実習の要領について
- 第10回：保育園見学のグループごとの話し合い
- 第11回：保育園見学実習（1回目）
- 第12回：保育園見学実習のまとめ、報告会
- 第13回：保育園見学実習（2回目）
- 第14回：保育園見学実習のまとめ、報告会
- 第15回：施設見学実習の要領について
- 第16回：施設見学のグループごとの話し合い
- 第17回：施設見学実習
- 第18回：施設見学実習のまとめ、報告会
- 第19回：実習ノート配布、実習ノートについて②
- 第20回：実習関係書類の下書き、作成
- 第21回：うれしたのしだいすき発表会（1・2年生全体）
- 第22回：〃
- 第23回：実習ノート、記録の実際
- 第24回：実習計画、部分実習指導案
- 第25回：保育実習の心構え、注意事項
- 第26回：保育実習関係書類配布
- 第27回：保育実習オリエンテーションについて
- 第28回：保育所実習オリエンテーション

第 29 回：施設実習オリエンテーション 第 30 回：実習直前の確認と準備 第 31 回：実習報告会①(グループ別) 第 32 回：実習報告会(1・2 年生全体) 第 33 回：〃 第 34 回：実習報告会②(グループ別) 第 35 回：指導案作成の考え方 第 36 回：保育実習評価のスーパーバイズ① 指導計画立案 第 37 回：保育実習評価のスーパーバイズ② 指導計画立案 第 38 回：保育実習評価のスーパーバイズ③ 指導計画立案 提出
[テキスト] 保育実習Ⅰと同様
[参考書・参考文献等] 保育実習Ⅰと同様
[学生に対する評価] 定期試験の結果の他、報告書等の提出、実習のための事前の準備や事後の整理の状況を総合的に判断し評価する。
[履修にあたっての留意点] 実習に関する実践的な学習の場であるので、欠席はもちろん遅刻などしないように注意すること。また、提出期限は厳守すること。
[実務経験] 保育職としての現場経験や各専門分野を生かして、実習指導を行う。

授業科目名： 保育実習Ⅱ又はⅢ	授業形態： 実習	授業担当者： 保育科専任（複数）	単位数： 2単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数：	対象学生： 保育科2年	開講学期： 前期
[授業の到達目標及びテーマ] 1 保育所、児童福祉施設等の役割や機能について実践を通して、理解を深める。 2 子どもの観察や関わりの視点を明らかにすることを通して、保育の理解を深める。 3 実践を通して、施設における支援の実際を学び、知識、技術、判断力を養う。 4 既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 5 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について取り組み、理解を深める。 6 保育士の業務内容や職業倫理について、実践に結びつけて理解する。 [授業の概要] 以下の通り			
[授業計画] 1 実習時期 2年前期 2 日数 10日間 3 実習施設 保育実習Ⅱ 保育所 保育実習Ⅲ 乳児院 母子生活支援施設 児童養護施設 障害児入所支援施設 児童発達支援センター 情緒障害児短期治療施設 児童自立支援施設 障害者支援施設 指定障害者福祉サービス事業所 児童相談所一時保護施設 又は独立行政法人国立知的障害者総合施設のぞみの園 4 実習内容 ① 実習オリエンテーション ② 観察実習・参加実習・責任実習 ③ 部分実習（手遊び、絵本・紙芝居の読み聞かせ、活動等） ④ 全日実習（計画と実施）⑤ 記録・反省評価			
[テキスト] 「教育・保育実習安心ガイド」阿部 恵・鈴木みゆき著 ひかりのくに 「施設実習ガイド」駒井美智子編 萌文書林 「最新保育資料集」「保育用語辞典」ミネルヴァ書房 「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 「幼稚園教育要領ハートブック」学研 「保育所保育指針解説」フレーベル館 「保育所保育指針ハートブック」学研 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領ハートブック」学研 「新版 日用語新字典」高橋書店			
[参考書・参考文献等] 特になし			
[学生に対する評価] 実習評価の結果の他、報告書の提出等を考慮し評価する。			
[履修にあたっての留意点] 保育の実践を学ぶ実習であるので、欠席はもちろん遅刻などしないように注意すること。また、実習日誌等の提出期限は厳守すること。			
[実務経験] 保育職としての現場経験や各専門分野を生かして、実習指導者と連携し、巡回訪問指導において、実習内容について確認・助言する。			

授業科目名： 保育実習指導Ⅱ又はⅢ	授業形態： 演習	授業担当者： 保育科専任（複数）	単位数： 1 単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 15 回	対象学生： 保育科 2 年	開講学期： 前期
[授業の到達目標及びテーマ] 保育実習指導Ⅱ又はⅢの目標は、保育実習の意義・目的を理解し、保育について総合的に学ぶことである。次に実習や既習の教科の内容を踏まえ、保育実践力を培っていく。また保育の観察、記録及び反省、評価等を踏まえて改善すべき点を学び、さらに保育の専門性と職業倫理について理解をする。 実習の事後指導を通して、自己評価を行い、自己の課題や認識を明確にする。 [授業の概要] 以下の通り			
[授業計画] 第 1 回：保育実習Ⅱ又はⅢについて(目的・概要・日程) 第 2 回：実習関係書類の下書き、作成 第 3 回：実習関係書類配布 第 4 回：保育実習Ⅱ又はⅢオリエンテーションについて 第 5 回：指導計画立案 第 6 回：保育実習の心構え、注意事項 第 7 回：保育実習Ⅱ又はⅢの報告会（グループ別①） 第 8 回：保育実習Ⅱ又はⅢの報告会（グループ別②） 第 9 回：保育実習評価のスーパーバイズ① 第 10 回：保育実習評価のスーパーバイズ② 第 11 回：うれしたのしだいすき打ち合わせ 第 12 回：うれしたのしだいすき練習 第 13 回：〃 第 14 回：うれしたのしだいすき発表会（1・2 年生全体） 第 15 回：実習の振り返り			
[テキスト] 保育実習Ⅱ又はⅢと同様			
[参考書・参考文献等] 保育実習Ⅱ又はⅢと同様			
[学生に対する評価] 定期試験の結果の他、報告書等の提出、実習のための事前の準備や事後の整理の状況を総合的に判断し評価する。			
[履修にあたっての留意点] 実習に関する実践的な学習の場であるので、欠席はもちろん遅刻などしないように注意すること。また、提出期限は厳守すること。			
[実務経験] 保育職としての現場経験や各専門分野を生かして、実習指導を行う。			

授業科目名： 教育原理	授業形態： 講義	授業担当者： 土屋 直人（単独）	単位数： 2 単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 15 回	対象学生： 保育科 1 年	開講学期： 前期
[授業の到達目標及びテーマ] 教育史、教育思想史の展開の中で培われてきた教育学の基礎概念を理解することを通して、子どもの成長・発達を支える援助実践の基礎にある教育理念について考察を深める。 [授業の概要] 今日の教育・保育の現実を視野に入れながら、教育の歴史、幼児教育思想史について、概説の聴講や資料講読、映像視聴等を通して、諸知見・見識等の基礎的理解を深め、教育の理念や教育の本質について、考察を深める。			
[授業計画] 第 1 回：ガイダンス、今日の子どもと教師、家庭・学校をめぐる状況 第 2 回：「教育」を取り巻く諸要素とそれらの相互関係 第 3 回：教育・社会の歩みと現代の教育課題 第 4 回：教育の歴史 その 1（家族と社会による教育の歴史） 第 5 回：教育の歴史 その 2（近代学校教育制度の成立と展開） 第 6 回：教育の歴史 その 3（西洋近代教育史・概観） 第 7 回：教育の歴史 その 4（近代日本の幼稚園・幼児教育史） 第 8 回：教育の思想 その 1（西洋近代教育思想史） 第 9 回：教育の思想 その 2（幼児教育思想の系譜） 第 10 回：教育の思想 その 3（ルソー、フレーベルの教育思想と現代） 第 11 回：教育の思想 その 4（近代日本の幼児教育思想の展開） 第 12 回：子ども観・教育観の展開と教育学の諸概念 第 13 回：現代の教育実践と教育の理念 第 14 回：近代教育思想史が現代の幼児教育に示唆するもの 第 15 回：講義全体の振り返り、まとめ			
[テキスト] 特になし。必要に応じてプリント等を配布する。			
[参考書・参考文献等] 『ペスタロッチー・フレーベル事典』（玉川大学出版部、1996 年）、ほか			
[学生に対する評価] 講義各回のレスポンスカードの内容、および最終試験の結果から、総合的に評価する。			
[履修にあたっての留意点] 講義の中では、資料や映像の中の具体的な事実に基づきながら、理論や思想についてイメージをもってとらえることに留意していただきたい。			
[実務経験] 教員として岩手大学に所属（勤務）し、主に公民教育・生活科教育論を担当。大学での教育実践史研究、生活教育の思想史研究の経験をもとに、幼児教育の思想史等について講義をします。			

授業科目名： 社会的養護Ⅰ	授業形態： 講義	授業担当者： 名古屋恒彦（単独）	単位数： 2 単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 15 回	対象学生： 保育科 1 年	開講学期： 後期
[授業の到達目標及びテーマ] 社会的養護の理念・概念、基本原則、制度と現状など、基礎的な事項を理解する。 [授業の概要] 現代における社会的養護の意義と歴史の変遷、社会的養護の基本、制度と実施体系、対象・形態・専門職について学習する。教科書を中心に授業を進めるが、トピックや関連領域（障害福祉、特別支援教育等）についても触れる。必要に応じてグループ協議も行う。			
[授業計画] 第 1 回：社会的養護の理念と概念 第 2 回：社会的養護の歴史の変遷 第 3 回：子どもの権利条約 第 4 回：障害者権利条約 第 5 回：社会的養護の基本原則 第 6 回：社会的養護の基本原則と支援 第 7 回：保育士等の倫理・責務 第 8 回：社会的養護にかかわる基本制度・法体系 第 9 回：今日的課題にかかわる基本制度・法体系 第 10 回：社会的養護の対象 第 11 回：家庭養護と施設養護 第 12 回：社会的養護にかかわる専門職 第 13 回：社会的養護の現状と課題 第 14 回：関連機関との連携 第 15 回：まとめ～社会的養護の今後に向けて			
[テキスト] 『社会的養護Ⅰ・Ⅱ』（谷口純世・加藤洋子・志濃原亜美編著 光生館）			
[参考書・参考文献等]			
[学生に対する評価] 授業での発言、小レポート及び期末試験によって評価します。			
[履修にあたっての留意点] 新聞等での社会的養護に関する記事や情報を、関心をもって読んでください。			
[実務経験] 養護学校教諭 11 年、特別支援学校校長 3 年、社会福祉法人評議員 2 年（継続中）など			

授業科目名： 保育原理	授業形態： 講義	授業担当者： 渡邊 好美（単独）	単位数： 2単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 15回	対象学生： 保育科1年	開講学期： 前期
[授業の到達目標及びテーマ] 乳幼児期における保育の意義及び目的、保育に関する法令及び制度の理解をすると共に、保育の思想と歴史的変遷及び保育の現状と課題についての理解を深める。			
[授業の概要] 保育所保育指針における保育の基本について、乳幼児を取り巻く環境の変化に伴う保育の現状を踏まえ、実践をイメージできる学びにつながる講義の展開をする。			
[授業計画] 第1回：保育の理念と概念 ① 保育と教育 第2回： " ② 保育の倫理と保育マインド 第3回：保育の社会的役割と責任 第4回：子ども・子育て支援新制度と保育にかかわる関係法令 第5回：保育の実施体系 第6回：保育所保育指針に基づく保育 第7回：保育の目標と方法 第8回：乳児の保育 第9回：1歳以上3歳未満児の保育 第10回：3歳以上児の保育 第11回：子ども理解に基づく保育の過程①理論編 第12回： " ②実践編 第13回：日本、諸外国の保育の思想と歴史 第14回：日本の保育の現状と課題 第15回：まとめ			
[テキスト] 基本保育シリーズ①「保育原理」 天野 珠路、北野 幸子編集 中央法規出版			
[参考書・参考文献等] 保育所保育指針解説 幼稚園教育要領解説 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 視聴覚教材 他			
[学生に対する評価] 学習意欲、課題レポート、試験などで総合的に評価する。			
[履修にあたっての留意点] 学生一人一人が具体的な保育者としてのイメージを持てるよう、主体的に学ぶ姿勢で臨んでほしい。			
[実務経験] 保育職として幼児教育の現場での実務経験を基に、子ども理解等の保育の基本の理解が深まるよう講義する。			

授業科目名： 教職概論	授業形態： 講義	授業担当者： 名古屋恒彦（単独）	単位数： 2 単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 15 回	対象学生： 保育科 1 年	開講学期： 後期
[授業の到達目標及びテーマ] 社会及び学校教育における教職の位置づけ・意味づけを理解すると共に、幼児教育・保育に従事する専門職としての基本的な事項を理解する。 [授業の概要] 我が国における学校教育制度や歴史を踏まえた教職の位置づけ・意味づけ、今日求められる教職のありようなどを学習する。授業のテーマごとに必要に応じて関連する保育士論についても触れる。教科書を用いて、各授業のテーマに即して授業を進めるが、トピックについても最新資料を示しながら概説する。			
[授業計画] 第 1 回：我が国の学校教育と教職 第 2 回：教職に関する法令等 第 3 回：学校教育における幼児教育と福祉における保育 第 4 回：幼稚園教育で教師が理解すべき教育の目標 第 5 回：幼稚園の生活の中での教師の役割 第 6 回：援助・支援の意味と実際 第 7 回：子ども理解のありようと援助 第 8 回：保護者・家族支援 第 9 回：校内・園内連携 第 10 回：関連機関等との連携 第 11 回：特別な支援を必要とする子どもへの対応 第 12 回：海外に出自をもつ等の子どもの対応 第 13 回：教職の歴史から考える今日的な課題 第 14 回：今日的課題として個別最適な学びと協働的な学び 第 15 回：まとめ～再び援助・支援論を考える			
[テキスト] 『幼稚園教育要領解説 平成 30 年 3 月』（文部科学省 フレーベル館）			
[参考書・参考文献等] 文部科学省ホームページ等より資料を紹介します。			
[学生に対する評価] 授業での発言、小レポート及び期末試験によって評価します。			
[履修にあたっての留意点] 新聞等での幼稚園教諭の仕事などに関する記事や情報を、関心をもって読んでください。			
[実務経験] 養護学校教諭 11 年、特別支援学校校長 3 年、社会福祉法人評議員 2 年（継続中）など			

授業科目名： 教育制度論	授業形態： 講義	授業担当者：(複数) 高橋寛人・新福悦郎	単位数： 2 単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 15 回	対象学生： 保育科 2 年	開講学期： 前期
[授業の到達目標及びテーマ] 現代の学校教育に関する社会的、制度的・経営的事項について、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。なお、学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識も身に付ける。 [授業の概要] 現代社会の様々な教育における問題と学校を巡る近年の政策的動向を理解し、現代公教育制度、特に幼稚園をめぐる法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を学ぶ。			
[授業計画] 第 1 回 教育法規と法令の読み方 (担当：高橋) 第 2 回 義務教育の類型 (担当：高橋) 第 3 回 日本の義務教育(義務から権利へ) (担当：高橋) 第 4 回 子どもの人権をめぐる近年の状況変化と政策(担当：新福) 第 5 回 学校と地域の連携の意義と取り組み(担当：新福) 第 6 回 学校安全への対応 (1) (担当：新福) 第 7 回 学校安全への対応 (2) (担当：新福) 第 8 回 教育課程行政：教育・保育の目的・目標 と『教育要領』『保育要領』 (担当：高橋) 第 9 回 学校制度の類型 (担当：高橋) 第 10 回 日本の学校制度 (担当：高橋) 第 11 回 Society5.0 時代の学校変革 (担当：高橋) 第 12 回 幼稚園の職員・組織と経営 (担当：高橋) 第 13 回 教育公務員 としての教員 (服務・研修) (担当：高橋) 第 14 回 教育行政 (教育委員会制度を中心に) (担当：高橋) 第 15 回 総括、全体の振り返り (担当：高橋)			
[テキスト]			
[参考書・参考文献等] 「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」			
[学生に対する評価] リアクションペーパー (80 点)、授業の取り組み (20 点)			
[履修にあたっての留意点]			
[実務経験] 担当：新福、有 (教育委員：宮城県内自治体、公立中学校教員)			

授業科目名： 教育心理学	授業形態： 講義	授業担当者： 熊谷 賢（単独）	単位数： 2 単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 15 回	対象学生： 保育科 1 年	開講学期： 前期
[授業の到達目標及びテーマ] 教育心理学で学習する理論やデータが実際にどのように活かされているのかということに重点を置いて学ぶ。 [授業の概要] 教育心理学が取り上げているテーマの中でも「発達」、「学習と知能」、「障害児の理解」に重点を置いて学ぶ。			
[授業計画] 第 1 回：教育心理学について学ぶ意味（発達を踏まえた学習における教師の期待や子どもの個人差） 第 2 回：学習のメカニズム （古典的条件付け、オペラント条件付け、観察学習などの代表的学習理論と応用） 第 3 回：動機づけの基礎・動機づけの応用 （内発的・外発的動機付けなどの動機付け理論や自己効力感を高めるための動機付けや評価） 第 4 回：記憶の分類（短期記憶、長期記憶、ワーキングメモリなどの理解） 第 5 回：記憶の理論を活かす（記憶理論や記憶の発達を活かした効果的な学習方法） 第 6 回：学習方略（自己制御学習や学習方略の熟達化） 第 7 回：メタ認知の理解や教育・こどもと教師の学習観 第 8 回：発達の理論（ピアジェの発達理論と理論を踏まえた教材の準備） 第 9 回：乳・幼児期の発達（1）（育児の生物学的基盤と乳幼児期の経験） 第 10 回：乳・幼児期の発達（2）（ことばの発達や領域固有の知能（心の理論など）） 第 11 回：社会性・道徳性の発達（仲間集団や道徳性の発達や学級集団の特徴） 第 12 回：読解力の発達と教育（読解力も含む言語能力を育むための教育） 第 13 回：青年期の発達（アイデンティティ形成と諸問題） 第 14 回：「障害」を理解する（発達障害の概要や障害を理解する視点（インクルージョンなど）） 第 15 回：障害をもつ子どもの教育を考える（特別支援教育の考え方やエピソード読解）			
[テキスト] 「絶対役立つ教育心理学（第 2 版）」 藤田哲也編著 ミネルヴァ書房			
[参考書・参考文献等] 授業中に適宜資料を配布する。視聴覚教材を利用する。			
[学生に対する評価] 課題レポート、グループワーク後に作成するグループごとのレポート			
[履修にあたっての留意点] 特になし			
[実務経験] 学術研究発表等の経験を活かし、理論を活かした実践について、わかりやすく指導する。			

授業科目名： 子ども家庭支援の心理学	授業形態： 講義	授業担当者： 菅原 正和（単独）	単位数： 2 単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 15 回	対象学生： 保育科 2 年	開講学期： 前期
[授業の到達目標及びテーマ] 子ども家庭支援の心理学における「生涯発達」、「家族・家庭の理解とその機能」、「子育て家庭の現状と課題」、「子どもの精神保健」、の 4 つの基本領域の重要事項を DVD、VHS、心理検査等を通して理解し、実践的活動に生かすことが出来るようになる。 [授業の概要] 本授業の概要・計画は下記のとおりである。			
[授業計画] 第 1 回：子ども家庭支援の心理学の概要 第 2 回：乳幼児の発達と親子関係 第 3 回：児童の自我発達と発達課題 第 4 回：初期経験の重要性 第 5 回：オランダ飢餓と遺伝子 第 6 回：エピジェネティクス 第 7 回：家族・家庭の意義 第 8 回：発達障害と家族心理学 第 9 回：虐待といじめ問題 第 10 回：不登校、不登園 第 11 回：学習障害 第 12 回：子どものストレスと不応 第 13 回：子どもの生活リズム 第 14 回：子どもの心の健康 第 15 回：重点項目の整理と総括			
[テキスト] 資料配布			
[参考書・参考文献等] プリント			
[学生に対する評価] 小レポート 30%、試験 70%			
[履修にあたっての留意点] 学生参加型			
[実務経験] 大学教員として「生涯発達心理学」「教育心理学」「臨床心理学」を担当した経験をもとに講義を担当します。			

授業科目名： 特別支援教育概論	授業形態： 演習	授業担当者： 名古屋恒彦（単独）	単位数： 2 単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 30 回	対象学生： 保育科 1 年	開講学期： 通年
[授業の到達目標及びテーマ] 特別支援教育の理念、制度、対象となる子どもへの理解、指導・支援のあり方、幼稚園における特別支援、幼稚園と他校種・他機関等との接続・連携などを理解する。 [授業の概要] 教科書に即して、特別支援教育の理念や制度、教育的ニーズの理解、支援内容・方法等を学習する。			
[授業計画] 第 1 回：特別支援教育とは 第 2 回：特別支援教育にかかわる国際動向 第 3 回：特別支援教育の法令 第 4 回：視覚障害 第 5 回：聴覚障害 第 6 回：言語障害 第 7 回：知的障害 第 8 回：肢体不自由 第 9 回：病弱・身体虚弱 第 10 回：自閉スペクトラム症（自閉症） 第 11 回：学習障害（LD） 第 12 回：注意欠如多動症（ADHD） 第 13 回：重複障害、その他のニーズ 第 14 回：乳児期における支援 第 15 回：通常の学級における支援、UD		第 16 回：通級による指導 第 17 回：特別支援学級 第 18 回：特別支援学校 第 19 回：教科指導の考え方、自立活動 第 20 回：各教科等を合わせた指導①日常生活の指導 第 21 回：各教科等を合わせた指導②遊びの指導 第 22 回：各教科等を合わせた指導③生活単元学習 第 23 回：各教科等を合わせた指導④作業学習 第 24 回：今日的課題（キャリア教育・ICT） 第 25 回：交流及び共同学習 第 26 回：センター的機能と特別支援教育コーディネーター 第 27 回：保護者・きょうだいとの連携、家族支援 第 28 回：外国にルーツのある子ども 第 29 回：心理アセスメント 第 30 回：まとめ～教育目標「自立」と支援	
[テキスト] 『特別なニーズ教育の基礎と方法』（植草学園大学・短期大学特別なニーズ教育研究グループ編著 ジアース教育新社）			
[参考書・参考文献等] 必要に応じて資料を紹介します。			
[学生に対する評価] 授業での発言、小レポート及び期末試験によって評価します。			
[履修にあたっての留意点] 新聞等での特別支援教育に関する記事や情報を、関心をもって読んでください。			
[実務経験] 養護学校教諭 11 年、特別支援学校校長 3 年、社会福祉法人評議員 2 年（継続中） など			

授業科目名： 教育課程と教育方法論	授業形態： 講義	授業担当者： 名古屋恒彦（単独）	単位数： 2 単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 15 回	対象学生： 保育科 1 年	開講学期： 前期
[授業の到達目標及びテーマ] 幼稚園教育要領を理解する前提となる教育課程の概念や、学習指導要領・幼稚園教育要領の基本を理解すると共に、主に幼稚園教育における教育の方法の基礎を理解する。 [授業の概要] 教科書として幼稚園教育要領及びその解説書を用い、幼稚園教育における教育課程や教育方法のあり方を概説する。今日的課題に直結する幼稚園教育要領のキーワード、ICT 活用やキャリア教育のあり方についても概説する。			
[授業計画] 第 1 回：教育課程と幼稚園教育要領 第 2 回：幼稚園教育の基本と、教育課程の要としての教育目標 第 3 回：幼稚園教育要領のキーワード①社会に開かれた教育課程 第 4 回：幼稚園教育要領のキーワード②幼稚園教育において育みたい資質・能力 第 5 回：幼稚園教育要領のキーワード③主体的・対話的で深い学び 第 6 回：幼稚園教育要領のキーワード④カリキュラム・マネジメント 第 7 回：教育課程編成の基本と留意事項 第 8 回：指導計画の作成 第 9 回：領域と遊び・生活 第 10 回：幼児理解に基づいた評価 第 11 回：特別な配慮を必要とする幼児への指導 第 12 回：幼児教育の歴史から見る教育方法の変遷 第 13 回：今日的課題①幼児期のキャリア教育 第 14 回：今日的課題②ICT の活用、情報化・国際化への対応 第 15 回：まとめ～教育目標に基づく教育課程と教育方法			
[テキスト] 『平成 29 年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（原本）』（文部科学省 厚生労働省 内閣府 チャイルド本社）			
[参考書・参考文献等] 『幼稚園教育要領解説 平成 30 年 3 月』（文部科学省 フレーベル館）			
[学生に対する評価] 授業での発言、小レポート及び期末試験によって評価します。			
[履修にあたっての留意点] インターネット、書籍等で、なるべく幼稚園教育の実際に触れてください。			
[実務経験] 養護学校教諭 11 年、特別支援学校校長 3 年、社会福祉法人評議員 2 年（継続中）など			

授業科目名： 幼児理解	授業形態： 演習	授業担当者： 熊谷 賢（単独）	単位数： 2 単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 1 5 回	対象学生： 保育科 2 年	開講学期： 後期
[授業の到達目標及びテーマ] 豊かな幼児理解を実現し、保育現場での実践を目指す。 [授業の概要] 保育者を志すために必須の知的視点を複数の立場から紹介しつつ、心情的な幼児の捉えかたについて習得する。			
[授業計画] 第 1 回：子ども理解とは 第 2 回：子どもの発達の理解 第 3 回：子ども理解と環境理解 第 4 回：子ども理解を深めるための実態把握 第 5 回：子ども理解からはじまる計画と援助 第 6 回：保育実践における子ども理解 第 7 回：子ども理解と養護 第 8 回：気になる子ども理解と援助 第 9 回：障害のある子どもの理解と援助 第 10 回：子ども理解と保護者理解 第 11 回：子育て支援・家庭支援と子ども理解 第 12 回：専門機関との子ども理解の共有 第 13 回：子ども理解を深める実践と省察 第 14 回：保育カンファレンスにおける子ども理解 第 15 回：子ども理解に基づく援助から生れるもの			
[テキスト] 「子どもの理解と援助 保育士を育てる③」 大沢裕・藤田久美 編 一藝社			
[参考書・参考文献等] 授業中に適宜資料を配布する。視聴覚教材を利用する。			
[学生に対する評価] 課題レポート、グループワーク後に作成するグループごとのレポート			
[履修にあたっての留意点] 特になし			
[実務経験] 岩手県保育者養成校連絡協議会研究部員としての活動や、岩手県保育研究大会で現場の先生方との協働してきた経験を伝えていきたい。			

授業科目名： 幼児教育相談	授業形態： 演習	授業担当者： 熊谷 賢（単独）	単位数： 2 単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 15 回	対象学生： 保育科 1 年	開講学期： 後期
[授業の到達目標及びテーマ] 保育者が、さまざまな状況にある子どもたちとその保護者へ支援をするときに、必要となる知識・技能について習得する。 [授業の概要] 幼児理解や発達の考え方、心理学的援助の考え方・方法、専門機関との連携やサポート源について学ぶ。			
[授業計画] 第 1 回：子どもを知る（発達の基本的な考え方や発達理論について） 第 2 回：子どもの「いま」を知る 第 3 回：子どもと親のかかわりを理解する 第 4 回：子どもと臨床的かかわり 第 5 回：心理療法の基礎理論 第 6 回：さまざまな心理療法 第 7 回：カウンセリングの基礎 第 8 回：子ども臨床と心理アセスメント 第 9 回：相談援助と子育て支援（1）（家族へのアプローチと子育て支援） 第 10 回：相談援助と子育て支援（2）（専門機関との連携） 第 11 回：ライフサイクルと子ども臨床 第 12 回：発達過程で生じる障害や問題行動と子ども臨床（1）（知的障害、自閉症スペクトラム） 第 13 回：発達過程で生じる障害や問題行動と子ども臨床（2）（AD/HD、LD、児童虐待） 第 14 回：コミュニティと子ども臨床 第 15 回：子ども臨床と専門性			
[テキスト] 「子ども臨床とカウンセリング」 伊藤健次 編 みらい			
[参考書・参考文献等] 授業中に適宜資料を配布する。視聴覚教材を利用する。			
[学生に対する評価] 課題レポート、グループワーク後に作成するグループごとのレポート			
[履修にあたっての留意点] 特になし			
[実務経験] 岩手県保育者養成校連絡協議会研究部員としての活動や、岩手県保育研究大会で現場の先生方との協働してきた経験を伝えていきたい。			

授業科目名： 幼稚園教育実習	授業形態： 実習	授業担当者： 保育科専任（複数）	単位数： 4 単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数：	対象学生： 保育科 2 年	開講学期： 通年
[授業の到達目標及びテーマ]			
1 幼稚園における生活の流れや教育・養護の実践的理解をする。 2 幼児の発達についての実践 的理解をし、教育内容における指導技術を習得する。 3 教育課程、指導計画などの理解と立案・実践を行い、記録及び自己評価等について取り組み、実践的な理解を深める。 4 既習の教科や実習での経験を踏まえ、保護者とのコミュニケーションのとり方を学ぶ。 5 幼稚園教諭の業務内容や職業倫理について学ぶ。			
[授業の概要]			
以下の通り			
[授業計画]			
＜前期教育実習＞		実習内容	
1 実習時期	2 年前期	① 実習オリエンテーション	
2 日数	1 0 日間	② 観察実習・参加実習・責任実習	
3 実習施設	専修大学北上幼稚園	③ 部分実習	
＜後期教育実習＞		(手遊び、絵本等の読み聞かせ、活動、生活指導)	
1 実習時期	2 年後期	④ 全日実習（計画と実施）	
2 日数	1 0 日間	⑤ 記録・反省評価	
3 実習施設	希望する幼稚園		
[テキスト]			
「教育・保育実習安心ガイド」阿部 恵・鈴木みゆき著 ひかりのくに 「施設実習ガイド」駒井美智子編 萌文書林 「最新保育資料集」「保育用語辞典」ミネルヴァ書房 「幼稚園教育要領解説」フレーベル館「幼稚園教育要領ハンドブック」学研 「保育所保育指針解説」フレーベル館「保育所保育指針ハンドブック」学研 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領ハンドブック」学研 「新版 日用語新字典」高橋書店			
[参考書・参考文献等]			
上記テキスト等に加え、授業中に適宜資料を配付する。			
[学生に対する評価]			
実習評価の結果他、報告書の提出等を考慮し評価する。			
[履修にあたっての留意点]			
教育の実践を学ぶ実習であるので、欠席はもちろんのこと遅刻などしないように注意すること。 また、実習日誌等の提出期限は厳守すること。			
[実務経験]			
保育職としての現場経験や各専門分野を生かして、実習指導者と連携し、巡回訪問指導において、実習内容について確認・助言する。			

授業科目名： 幼稚園教育実習の 事前事後指導	授業形態： 実習	授業担当者： 保育科専任（複数）	単位数： 1 単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 30 回	対象学生： 保育科 1 年・2 年	開講学期： 1 年後期・2 年前後期
[授業の到達目標及びテーマ] 保育者に求められる専門適所能力を中心に、今日における保育者の役割と使命を明らかにすることを目標とする。 [授業の概要] 教職の意義および教育専門職としての教師（保育者）のあり方を理解するとともに、保育者に求められる資質、保育者自身が成長していくための姿勢や態度について学習する。			
[授業計画] 1 年次 第 1 回：教育実習について（目的・概要） 第 2 回：教育実習の実際、後期実習希望調査 第 3 回：指導計画作成について 第 4 回：指導計画立案 第 5 回：北上幼稚園見学実習 2 年次 第 6 回：教育実習について（日程、オリエンテーションについて） 第 7 回：教育実習関係書類の準備 第 8 回：教育実習オリエンテーション 第 9 回：教育実習指導計画の作成、実習準備 第 10 回：教育実習振り返り 第 11 回：教育実習報告会（グループ別） 第 12 回：うれしたのしだいすき練習 第 13 回：〃 第 14 回：うれしたのしだいすき発表会（1・2 年生全体） 第 15 回：前期教育実習評価のスーパーバイズ① 第 16 回：前期教育実習評価のスーパーバイズ② 第 17 回：前期教育実習評価のスーパーバイズ③ 第 18 回：夕涼み会（北上幼稚園） 第 19 回：教育実習関係書類の作成 第 20 回：教育実習(後期)オリエンテーション 第 21 回：実習直前の確認と準備 第 22 回：教育実習振り返り 第 23 回：教育実習報告会（グループ別） 第 24 回：実習報告集作成について 報告集下書き開始 第 25 回：後期教育実習評価のスーパーバイズ① 報告集作成 第 26 回：後期教育実習評価のスーパーバイズ② 報告集作成 第 27 回：後期教育実習評価のスーパーバイズ③ 報告集作成 第 28 回：実習報告会(1・2 年生全体) 第 29 回：〃 第 30 回：まとめ 実習報告集完成（配布）			
[テキスト] 幼稚園教育実習と同様			
[参考書・参考文献等] 幼稚園教育実習と同様。適宜授業中に資料を配付する。			
[学生に対する評価] 定期試験の結果の他、報告書等の提出、実習のための事前の準備や事後の整理の状況を、総合的に判断し評価する。			
[履修にあたっての留意点] 実習に関する重要な連絡事項や書類の作成などが多いので、欠席はもちろん遅刻などしないように注意すること。提出期限は厳守する。			
[実務経験] 保育職としての現場経験や各専門分野を生かして、実習指導を行う。			

授業科目名： 保育・教職実践演習(幼)	授業形態： 演習	授業担当者： 保育科専任（複数）	単位数： 2 単位
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 1 5 回	対象学生： 保育科 2 年	開講学期： 後期
[授業の到達目標及びテーマ] 本講義を履修する者の専門科目の履修状況を踏まえ、教員として最小限必要な資質能力の最終的な形成と確認を行う。 [授業の概要] 2 年間で学習・実習したことを深化・統合していく中で、教員として求められる 4 つの事項について再考する。また、現役幼稚園教諭による講義を取り入れ、現場が抱える様々な課題への対応、学級担任の役割や実務、他の教職員との協力の在り方についても確認する。さらに、様々な場面を想定した学生による“模擬授業”を実施し、資質能力の保管を行う。			
[授業計画] 第 1 回：これまでの学修についての講義・グループ討議 第 2 回：職務内容・園組織、保護者・地域の関係者に関する講義（現職教員による講義を含む） 第 3 回：幼児理解の講義・グループ討議（年齢による子どもの理解を含む） 第 4 回：学級経営に関する講義（3 歳児）・グループ討議（現職教員による講義を含む） 第 5 回：学級経営に関する講義（4 歳児）・グループ討議（現職教員による講義を含む） 第 6 回：学級経営に関する講義（5 歳児）・グループ討議（現職教員による講義を含む） 第 7 回：教科・保育内容等の指導力についての講義・グループ討議 第 8 回：保育内容のビデオカンファランス・グループ討議 第 9 回：学級経営案の作成に関する講義 第 10 回：模擬授業実施に向けたグループ討議 第 11 回：グループごとの模擬授業・グループ討議 1（現職教員参加） 第 12 回：グループごとの模擬授業・グループ討議 2（現職教員参加） 第 13 回：子どもの行動の理解について・グループ討議（まとめと発表） 第 14 回：資質能力の確認（自己評価） 第 15 回：まとめ（履修カルテ返却）			
[テキスト] 各テーマ毎に担当教員の配布資料を使用する。			
[参考書・参考文献等] 「わかりやすい指導計画作成のすべて」 柴崎 正行編・著 フレーベル館			
[学生に対する評価] 模擬授業の状況、レポート提出から総合判断をする。			
[履修にあたっての留意点] 既習の授業や実習を通しての学びを振り返り、自分の課題を明確にすること、また本教科を通して明らかになった課題への取り組み方について学ぶ姿勢を持つよう努力すること。			
[実務経験] 幼稚園教諭として勤務経験のある教員を中心に、講義や演習を行う。また、現職教員も参加した模擬授業を行う。			

授業科目名： 音楽	授業形態： 演習	授業担当者：(複数) 磯貝友絵・高橋摩利子 菅原智恵・八木絵未	単位数： 2 単位	
科目の種別： 必修・専門科目	授業回数： 3 0 回	対象学生： 保育科 1 年	開講学期： 通年	
[授業の到達目標及びテーマ] 保育者として必要な、音楽的基礎知識、基礎技能を中心に幼児音楽教育技術を身に付ける。				
[授業の概要] 楽譜を読む力を身に付けるために、音楽基礎理論の学習を行う。また、その理論をもとにしながら、ピアノの基本的技能を身に付ける。毎時間、基礎技能のためのピアノ練習曲と子どもの歌の弾き歌い曲課題に取り組む。				
[授業計画] 第 1 回：授業概要説明、実技導入指導 第 2 回：音名/ハ長調の和音 第 3 回：音の長さ/ハ長調の和音 第 4 回：音の長さ/ハ長調の和音、子どもの歌 第 5 回：拍子/ハ長調の和音、子どもの歌 第 6 回：拍子/ハ長調の和音、子どもの歌 第 7 回：音階/ハ長調の和音、子どもの歌 第 8 回：調/ト長調の和音 第 9 回：調/ト長調の和音、子どもの歌 第 10 回：調/ヘ長調和音 第 11 回：調/ヘ長調の和音、子どもの歌 第 12 回：記号/子どもの歌の弾き歌い 第 13 回：楽典まとめ/子どもの歌の弾き歌い 第 14 回：楽典まとめ/子どもの歌の弾き歌い 第 15 回：前期まとめ 〈上級者グループ〉 ピアノ経験者のある学生は、それぞれの進度に合わせた曲に取り組む。				第 16 回：練習曲・子どもの歌 第 17 回：短調/練習曲・子どもの歌 第 18 回：移調/練習曲・子どもの歌 第 19 回：移調/練習曲・子どもの歌 第 20 回：初見・子どもの歌 第 21 回：コード/練習曲・子どもの歌 第 22 回：コード/連弾・子どもの歌 第 23 回：コード/練習曲・子どもの歌 第 24 回：コード/練習曲・子どもの歌 第 25 回：音楽用語/練習曲・子どもの歌 第 26 回：音楽用語/練習曲・子どもの歌 第 27 回：楽典まとめ/練習曲 第 28 回：楽典まとめ/練習曲 第 29 回：楽典まとめ/練習曲 第 30 回：まとめ
[テキスト] 「大学ピアノ教本」教育芸術社 「ポケットいっぱいのうた」教育芸術社				
[参考書・参考文献等] 特になし				
[学生に対する評価] 授業担当者全員による評価。主に実技試験で評価する。但し、レッスン時の態度、普段の練習に対する意欲など加味する。				
[履修にあたっての留意点] 必ず練習してから授業に臨むこと。				
[実務経験] ピアノ教室でのピアノ指導経験や他校種での音楽教育の実務経験を生かし、ピアノ実技指導や基礎理論指導を行う。				

授業科目名： 図画工作	授業形態： 演習	授業担当者： 伊藤 麻紀（単独）	単位数： 1 単位
科目の種別： 選択必修・専門科目	授業回数： 15 回	対象学生： 保育科 1 年	開講学期： 前期
[授業の到達目標及びテーマ] 自らつくり、表現することで子どもの造形表現活動を体験的に理解し、その意義について考える。 また、用具の正しい使い方、素材と技法の特性についての知識を身に付ける。 [授業の概要] 造形表現の基礎と素材の扱い、技法を知り、子どもの造形表現活動の展開について学ぶ。			
[授業計画] 第 1 回：図画工作の概要 表現とは 第 2 回：描画の基本 （1）いろいろな色をつくろう 第 3 回：描画の基本 （2）いろいろな線を描こう 第 4 回：描画の基本 （3）感じたことを表現しよう 第 5 回：立体の造形＜粘土＞ （1）観察してつくる 第 6 回：立体の造形＜粘土＞ （2）想像してつくる 第 7 回：紙の工作 （1）新聞紙の遊び 第 8 回：紙の工作 （2）紙を切る 第 9 回：紙の工作 （3）紙を折る、組む 第 10 回：つくる活動と保育環境 壁面装飾の役割と計画 第 11 回：つくる活動と保育環境 壁面装飾の部分づくり 第 12 回：つくる活動と保育環境 壁面装飾の組み立て 第 13 回：つくる活動と保育環境 壁面装飾の構成 第 14 回：つくる活動と保育環境 効果的な提示について 第 15 回：つくる活動と保育環境 展示スペースと保育空間			
[テキスト] 使用しない			
[参考書・参考文献等] 幼稚園教育要領ハンドブック、認定こども園教育・保育要領ハンドブック、保育所保育指針ハンドブック			
[学生に対する評価] 作品提出、活動のまとめレポート提出、授業への参加状況で総合的に評価する。			
[履修にあたっての留意点] 子どもの豊かな造形表現活動を支えるため、自らも表現することの楽しさを忘れず、感じたこと、気づきは書きとめて残し、役立てるようにする。			
[実務経験] 大学教員養成課程での演習補助や、保育園、児童館等での子育て支援講座の講師経験を活かし、子どもの造形表現活動の実際について演習を行う。			

授業科目名： 幼児体育	授業形態： 演習	授業担当者： 富谷 彩野（単独）	単位数： 2 単位
科目の種別： 選択必修・専門科目	授業回数： 15 回	対象学生： 保育科 2 年	開講学期： 後期
[授業の到達目標及びテーマ] 幼児期において、遊びを中心とする身体活動を十分に行うことは、心身の発育・発達及び運動能力の発達に深くつながっていくことを理解させる。また、より豊かな遊びを幼児が体験できるように、保育者がそのための環境を準備し、さらに遊びが発展できるような援助の方法を身につける。 [授業の概要] 幼児期の身体活動の必要性と心身の発育・発達及び運動能力の発達との関係について理解し、また、様々な遊具を使って各種の運動の目的、内容、方法と運動遊びの指導法について学ぶ。			
[授業計画] 第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：遊具を使わない遊び 第 3 回：マット・平均台・とび箱遊び① 第 4 回：マット・平均台・とび箱遊び② 第 5 回：リズム遊び 第 6 回：フープ遊び 第 7 回：ボール遊び 第 8 回：縄跳び遊び 第 9 回：身近なものを使った遊び 第 10 回：運動遊びの模擬授業について① 第 11 回：運動遊びの模擬授業について② 第 12 回：運動遊びの模擬授業実践① 第 13 回：運動遊びの模擬授業実践② 第 14 回：まとめ① 第 15 回：まとめ②			
[テキスト] 特になし。適宜資料を配布する。			
[参考書・参考文献等] 幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説			
[学生に対する評価] 授業態度、筆記試験等から総合的に評価する			
[履修にあたっての留意点] 様々な運動遊びを行うので、常に子どもと楽しむ方法を考えながら、積極的な態度で授業に臨んでほしい。			
[実務経験] 教員として他校種での学校勤務経験や講師経験を生かし、運動遊びやその指導法について演習する。			